

高柳健次郎先生

社内報資料アーカイブス

ビクター社内報

- ・ビクター時報
- ・ビクターニュース
- ・大和（月刊誌）

2015年（H27）7月

資料提供：西郷 治男

編集：清水 邦昭

～ 今回の企画の背景 ～

高柳先生は1946年（昭和21年）に日本ビクターに入社、テレビ開発を再開させ、ビデオテープレコーダーの原型である世界初の2ヘッドVTR開発、ステレオレコードの業界標準の45/45方式、マルチサラウンド技術の原型である世界初の4chレコードCD-4、さらにはプロジェクター等の技術の原点を作り上げられました。1950年には取締役技術部長に就任し、その後ビクターの副社長と技術最高顧問を歴任されました。

ところで、ビクターの社内報は昭和29年～30年頃から小冊子・社内報「大和（daiwa）」が発行（原則月1回発行、B5版、昭和49年春 268号にて廃刊）されていました。また新聞スタイル・社内報「ビクター時報」は昭和43年頃に発刊（月2回程度発行）されたものと推察され、一時期は並行して発行されていました。但し、「大和」以前に定期発行の社内報が存在していたかは不明です。

今回、「高柳先生関連の記事を社内報からピックアップしよう」との企画を立てました。ところが、社内報の発行当時からのバックナンバーすべてを調査するのが本来なのですが、残念ながら、「現在のJVCケンウッド 広報・IR部には過去の社内報が保存されていない」とのことが判りました。

そこで思い出したのが私がビクター在社時代に大変お世話になった西郷 治男さんです。西郷さんからは「入社以来すべての社内報を保存している」との言葉を伺っていましたので、早速コンタクト、今回の企画趣旨をご説明し記事提供をお願いしたところ、快諾頂きました。なお西郷さんは水戸のテープ事業部（磁気製品事業本部）ご出身ですが、本社広報室を最後に退社された方で、「ビクターニュース」の記事編集・執筆もされていた方です。

従って今回の特集記事は、広報室OBの西郷さんが「入社以降、毎号きちんと保存していた社内報バックナンバー」から、高柳先生関連記事を厳選・整理、スキャン・PDF化したファイルを頂戴し、私が編集させて頂いたものです。

西郷さんが入社されたのは昭和47年4月であり、記事の選択がそれ以降となっているのはその様な事情の所以であります。

2015年（H27）7月 清水 邦昭



2011年（H23）1月20日の Googleロゴ。
1月20日はテレビの父、高柳健次郎先生の
誕生日、ここからテレビの歴史が始まった。

ロゴの変遷

ビクター時報-14
 発行月日 : S56.11.1
 発行NO. : 300

高柳先生が 昭和
 56年度文化勲章
 を受賞した記事。
 記念すべき創刊
 300号のビクター
 時報



顧問の高柳純次郎先生が、多忙にわたるテレビジョン業務に、心をこめて
 して先大の文化勲章を贈られることになりました。文化勲章は、こころをこめて

松下幸之助相談役死去
 すでに新聞・テレビで、九十四歳で死去されま
 承知の通り、松下電器産業
 株式会社の前社長・松下幸
 之助相談役が四月二十七日
 アイデアと確
 固たる経営哲
 学で同社を世
 界一家電メ
 ーカに発展
 させるに、日本経済の
 異質を体現して、
 展に貢献され、さらにはP
 P運動、松下経営創設で
 人材育成にも尽くされて昭
 和六十二年には民間人とし
 て最高の勲一等瑞宝大章
 松下相談役は三十七年か
 ご冥福をお祈りします。

**わが社再建、VHS
 普及などに尽力**
 が、今日のビデオの隆盛を
 成に全力を
 けられたこと
 目、松下ケル
 一として育
 成に全力を
 成に全力を
 成に全力を

新たな特機事業
 特機部門は、四月十四日に東京地区の特機の営業セクター・浜町ビルで、全国の特機の
 幹部の第一級責任者百三十人と特本・事業部の関係者を集めて、平成元年度上半の特
 機販売責任者会議を開催し、新年度の諸問方針を協議しました。会議では、垣木社長、
 渡谷専務をはじめとする経営幹部のお話、各事業部長の説明と十三年度即期目標の優秀
 業績、優秀営業所の表彰が行われ、SV-1の発表に全員決意を新たにしました。

垣木社長は、最初六十三
 年度の全社売上が目標よりも
 六千億円に回復したことに
 ついて「特機部門のみならず
 には、先期、初めて半期三百
 億円を達成して、販売体質
 も強化され、収益は大幅に改
 善されました。」
 これにより、全社売上の中
 の特機の比率は約一割とな
 っており、着実に伸長してい
 ます。

成果を一つひとつ積み重ね
 て、今年はおおむね目標を飛
 躍して達成したと前置きし
 あわせて次への期待を込
 めて話しました。

「一年初の経営懇話会でお
 聞いた一システム特機事業
 の強化、広い意味では情報
 関連事業を含めた非民生分野
 一加え、まさに「付加価値を
 ら八年間わが社の会長を
 とられ、その後も取締
 役、相談役として大所商
 から経営の指導に当た
 られました。特にVHSの
 の開発に際して、早く
 その真価を
 目、松下ケル
 一として育
 成に全力を
 成に全力を

特機
 取

ビクター時報-22
 発行月日 : S64.5.10
 発行NO. : 452

松下相談役計報の下部に「春の叙勲・褒
 章、高柳先生勲一等瑞宝章、垣木社長藍
 綬褒章」の記事があります。

この秋、ビクターは元気がいいぞ



◀「ILA-M200 G」990万円 10/31発売
▶左にリア型、右フロント型が設置されたILA発表会場

注目の新商品が続々登場！



いよいよ本格的な秋を迎え、業界ではオーディオフェア・エレシヨーンに向けた新商品発表が活発化。当社も最大需要期の年末商戦を控え、注目の新商品を相次いで発表。9月末には「新型ILA」、10月初めには「DVC」さらに「液晶プロジェクター」というように「元氣イッパイのビクター」に各方面から大きな関心と期待が集まっています。

小型・軽量化
低価格化
続いて液晶モニター
ILAニューモ
マルチメディア時代の業務用大型映像システムとして好評を博している「ユーロILA M200G」が発売されます。9月28日、東京・日比谷ホテル東京に多数のマスコミ記者を集め、盛大な発表会を開催。はじめに佐々木常務から「ILAはハイビジョン、マルチメディア対応などトレン

ドにマッチ
テム、当社
換も不可
格もサイ
型ILA
ると話
と喜志
長の説明
度と向上
段がアビ

- ◆ビデオカメラの使い方を大きく変える小型・軽量化を実現～新パスポートサイズ、文庫本より小さく、重さ1ポンド。
 - ◆デジタルならではの高画質・高音質で、画質の劣化なし～ニジミ・ジッター（ゆれ）がなく、音はCDと同レベル。
 - ◆多彩な用途に使い、撮るときも見るときも楽しい充実機能～従来の演出効果に加えて、再生時のズームアップも可能
 - ◆基板など全社総合力を注ぎ込んだ最新技術・高度加工技術～6層基板、超小型スライドメカ、硬剛性材使用のボディ
- 妥協を許さぬ伝統のビクタースピリット



新しいパスポートとほぼ同じ大きさのポケットに入るDV1と話す清水本部長

世界最小

「お待たせしまー」

ロゴの変遷

20年前のビクターニュースです。

ビクター時報-22

発行月日 : H7.10.15

発行NO. : 566

GR-DV1

この年（1995年）に統一規格である「ミニDV」方式の製品が各社から一斉に発売された。唯一、ポケット型で1号機の参入をはかったのがビクター。

当時のカタログでは「世界最小・最軽量」をうたっており、DVではビクターがまずは先陣を切った格好。

1号機はまだ「液晶モニター」が付いていないが、このスタイリッシュなデザインは「次世代の主流」を予感させた。



世界最小・最軽量デジタルビデオカメラ

ポケットサイズのDV1誕生!

| NO. | 月日 | 発行NO. | 面(頁) | タイトル | 記事内容 |
|-----|-----------|-------|------|--------------------------------|---------------------------------|
| 1 | S47.12.16 | 95 | 1上 | 中国TV工業視察団岩井工場訪問、高柳副社長とシンポジウム | 12/9 東京、カラーTV標準方式の業界レベル討論会参加 |
| 2 | S47.12.16 | 95 | 1下 | ビデオに本格攻勢、ビデオ推進委員会発足 | 社内ビデオ推進委員会委員長に高柳副社長就任 |
| 3 | S49.3.1 | 124 | 3 | 高柳先生が劇画に 子供たちが見ている | 高柳先生の物語が小学館発行月刊誌掲載、感想文紹介 |
| 4 | S49.6.11 | 132 | 2 | 高柳取締役役にステレオ8のリアジェット社から記念楯 | 特許関係協力(V社アジア独占権)に対し米リ社より贈呈 |
| 5 | S49.9.11 | 140 | 7 | 最新機種ズバリ!ビクタービデオフェア | 東京日生会館で開催の'74ビデオフェアに夫妻で見学 |
| 6 | S49.11.11 | 146 | 1 | 勲二等瑞宝章 秋の叙勲でよろこびの受章 | 受章の喜び、皆さんのおかげ、夫人の内助の功にも感謝 |
| 7 | S49.12.1 | 148 | 4-5 | 百瀬さん、高柳さん、ごころうさまでした | 11/20 松下幸之助と共に両名退任、数々の思い出と感想 |
| 8 | S49.12.11 | 149 | 7 | 感謝と敬意をこめて(百瀬・高柳両役員を送る会) | 11/30 ホテルオークラで社内外関係者175名参加 |
| 9 | S50.1.21 | 151 | 4-5 | 高柳先生とオーディオ・ビデオの夢を語る | オーディオとビデオの若手社員2名と夢を語る座談会 |
| 10 | S54.8.10 | 253 | 5 | (映像学会)高柳先生を招いてテレビの原点探る | VIC虎ノ門で日本映像学会テレビ研究会に講演 |
| 11 | S55.11.1 | 279 | 1 | 高柳先生が文化功労者に、テレビジョン開発で | 昭55年文化功労者(10名)発表、11/4 教育会館で顕彰式 |
| 12 | S55.12.16 | 262 | 3 | 高柳先生おめでとうございます、大いなる栄誉たたえる | 12/2 帝国ホテルで文化功労者表彰祝賀会、270名参加 |
| 13 | S56.3.1 | 286 | 6 | 文化功労賞をお祝いし高柳先生に油絵贈る | 社内有志1800名で中谷泰画伯の油絵を2/4 自宅に届ける |
| 14 | S56.11.1 | 300 | 1 | テレビの父に輝く栄誉、高柳先生が文化勲章受ける | 10/20 56年度文化勲章(5名)発表、11/3皇居で顕彰式 |
| 15 | S56.10.16 | 320 | 4 | 先進の個性示す、(55周年ビクター総合展)6000人來場 | 12/2-5 ニューオータニ、国際パーティー会場で来賓と歓談 |
| 16 | S59.11.16 | 362 | 1 | 高柳先生が技術振興財団設立、独自の視点と着想の研究奨励 | 私財2億円投じ財団設立、電子科学関連研究の奨励助成 |
| 17 | S59.12.10 | 363 | 11 | 竹内科学技術庁長官ら多数迎え、高柳先生の財団設立披露 | 11/29 クラブ関東で設立披露会、各界トップ百数十名参加 |
| 18 | S60.4.1 | 369 | 1 | 高柳記念電子科学技術振興財団、第1回2名に助成金贈呈 | 3/23 科学万博会場の歴史館で贈呈式、式後は記念撮影 |
| 19 | S60.7.1 | 374 | 6 | 高柳先生の胸像完成、静岡大学工学部に偉大な業績たたえ | 6/1 静岡大学工学部の電子研究所前に先生の胸像完成 |
| 20 | S60.12.10 | 383 | 1 | 電子科学技術振興ねがい、高柳財団にわが社から1億円寄贈 | 11/20 先生に目録及び社内有志1907名の浄財も贈呈 |
| 21 | S61.2.16 | 386 | 2 | 高柳財団(第2回)60年度助成金3名贈呈、第1回高柳記念賞も | 1/20 工業倶楽部で助成金授与、テレビ事始め出版記念も |
| 22 | S64.5.10 | 452 | 1 | 春の叙勲・褒章、高柳先生勲一等瑞宝章、垣木社長藍綬褒章 | 4/29 発表で49年勲二等に次ぎ受章、5/8皇居で親授式 |
| 23 | H 2 8.10 | 478 | 1 | 高柳健次郎先生死去、護国寺で1千人がお別れ | 7/23 春から入院中の横須賀共済病院で死去(享年91才) |
| 24 | H 2 9.16 | 480 | 4 | 高柳先生安らかに、1800人が遺徳をしのぶ | 9/6 青山葬儀所で社葬、政府・業界・母校関係者が会葬 |
| 25 | H 3.3.1 | 490 | 2 | 故高柳先生の偉業を偲ぶ、政財界・業界から多数出席 | 1/23 アルカディア市ヶ谷、未来技術シンポジウム後に開催 |
| 26 | H10.4.1 | 618 | 2 | V70記念事業CD-ROM社史、テレビの父・高柳先生も登場 | CM名作の中にカラーTV-CMで先生の元気な姿が登場 |
| 27 | H11.2.15 | 636 | 6-7 | 高柳健次郎先生生誕100年特集・フォーチュンの前髪をつかめ | 略歴と功績、人口天才、天分に生きる、社内のエピソード等 |
| 28 | 大和1972.6 | 218 | グラビア | 盛況だったビクタービデオフェア(百瀬会長、高柳副社長來場) | 5/25 パレスホテル、東京特機営業所とビデオ事業部が開催 |
| 29 | 大和1973.3 | 227 | グラビア | CD-4でWEAグループと契約調印(世界へ大きく踏み出す) | 米エレクトラ社長と北野社長と調印、高柳副社長も出席 |
| 30 | 大和1973.4 | 228 | グラビア | 第1回オーディオテクニカルコンテスト決勝大会 | 受賞者にゴールドメダルを首にかけ高柳副社長 |
| 31 | 大和1973.10 | 234 | グラビア | 73ベルリンショー、VCRに注目集まる | VCRを発売するベルハウエル社幹部と話す高柳副社長 |

中国テレビ工業視察団

一月に岩井工場訪問

高柳副社長らとシンポジウム

さる十一月二十九日に、わが国電機業界にも関係深い「中国テレビ工業視察団」（鄧国軍団長）といくくぐん（団長）の一行十二人が、中国国際貿易促進委員会から派遣されて来日、来年の一月中旬までわが国テレビ工業を視察します。

同視察団は、カラーテレビの標準方式についての検討も大きな目的としておりますが、これに関するシンポジウムが十二月九日、東京・赤坂のホテル・ニューオータニで開催されました。

このシンポジウムは、テレビの

父ともいわれる高柳副社長が中心となって、わが国テレビ界の有識者も参加し行なわれました。

わが社からは高柳副社長のほか松山取締役（技本）長、垣木（テ本）次長が、また、このほかNHK、TBS、NET、松下電器、

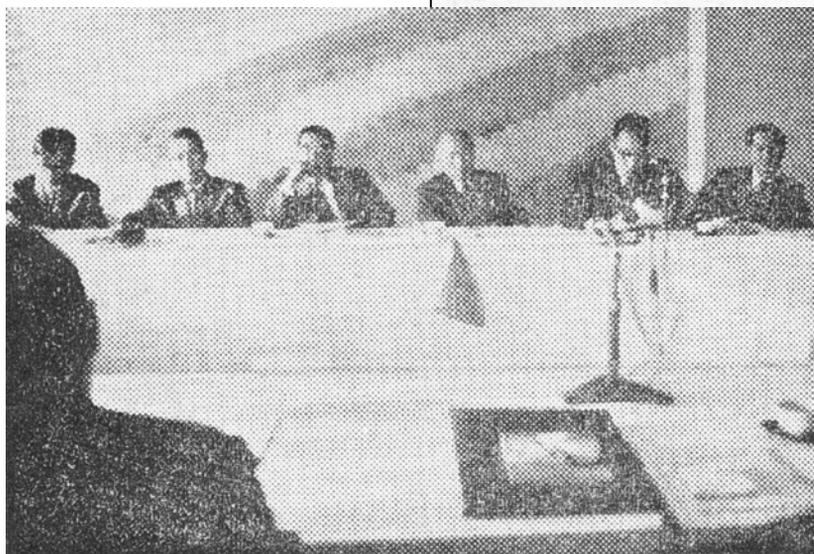
日立、東芝などからも会社幹部や技術担当責任者が参加して盛況でした。

なお、一月十二日に同視察団はわが社の岩井工場を訪問、ビクター・カラーテレビのすぐれた技術を視察することになっていきます。

ビクター時報-1
発行月日 : S47.12.16
発行NO. : 95
面(頁) : 1上

タイトル
「中国TV工業視察団
岩井工場訪問、高柳副
社長とシンポジウム」

記事内容
「12/9 東京、カラー
TV標準方式の業界
レベル討論会に参加」



シンポジウムでの高柳副社長（右から3人目）

ビデオに本格攻勢

協力機関の推進委発足



委員長・高柳副社長

これから将来に向かっての最重要商品であるビデオを本格的に育てていくため、さる十一月二十一日付けで「ビデオ推進委員会」(委員長・高柳副社長)が発足しました。

当ビデオ推進委員会は、ひとことではいえないビデオ事業部の協力、援助機関といえます。

ビデオは、わが社が開発した商品ですが、人間のくらしを豊かにするうえで大きな働きをもって

います。

ビデオ開発の先駆者としてわが社は、多くの人たちにビデオ文化をたのしんでいただき、さらに産業面でも活用していただくという重要な使命をもっているといえます。

また経営面からみた場合、ボストカラーの最重要商品がビデオであり、これをぜひ事業として本格的に育てあげる必要があります。

しかし、ビデオはその商品性格上、関連機器が多いこと、技術開発や市場開発が必要であること、さらに多額の投資も必要であり、一事業部だけにゆだねるのではなく、全社の総合力をもってこれに取り組む、(ビ事)を援助していくことが大切なのです。

ビデオ推進委員会は十七人で構

成されており、会議は必要に応じて、またテーマに応じて、随時、関連メンバーによって開催されることになっています。

委員長・高柳副社長のお話

「ビデオ産業は市場もひじょうに大きいし、生産体制、販売体制、サービステ体制とこれをとりあげても一事業部だけの力ではどうしてもムリな面がでてきます。そこで全社的に協力しあい、問題を解決して、ボスト・カラーとしてのビデオ事業を伸ばさせていくための役割りを果たしていこう、というのがビデオ推進委員会の発足となったというわけです。

この夏あたりから、日本、アメリカ、ヨーロッパなどでビデオ・パッケージの問題がクローズアップされてきました。その意味でも

いまが大切な時期であり、わが社がこれまで研究し開発してきたことを大きくのらせるために、ビデオ事業部の相談役となって、全社的規模で拡大をはかっていきたいと考えています」

なお「ビデオ推進委員会」メンバーはつぎのとおりです。

- 委員長／高柳副社長 副委員長／西垣専務(人本)長、徳光常務(テ本)長 委員／松山取締役(技本)長、若松取締役(社)付、渡辺取締役(企)長、平田取締役(経本)長、谷貝理事(生助本)次長、石神理事(広)長、奥野(特本)長、寺崎(サ本)長、小林(月本)次長、原田(曾本)次長、垣本(テ本)次長、高野(ビ事)長、福本(ビ事)次長、坂屋(企)課長

社内報

昭和49年3月1日 (金曜日)

高柳先生が劇画に

こどもたちが見てる

お礼状や感想文がいっぱい

ビクター商品についてお礼状をいただいたり、会社のいろんな事についての感想文がびっしょりと、うれしいものです。昨秋に、ベルマークでおなじみの教育設備助成会から、全国のへき地校にラジオ・カセット1「レコセツ」(RC-700N)五百台が贈られました。生徒さんたちから、そのお礼状や絵が同助成会をびっしょりとどいていきます。また「テレビの父」高柳取籍氏の物語がこのほど小学館発行の「小学五年生」「小学四年生」に紹介されましたが、その感想文も小学館で各地から寄せられています。

これらのおたまりは、わたしたちの大きな励みになるものです。

遠足のときの歌も録します
「カセット・レコーダーをいただいたころもありがどうですか」

十一月になると遠足に行きます

した。私たちはカセット・レコーダーを運動会の練習をするときに使ったおかげで、りっぱな運動会ができました。

が、その時にも歌を歌って、それをカセット・レコーダーに録音して、また楽しい思い出を残したいと思えます。

山口県阿武郡福栄村立平田小学校



レポ7に大よろこび (山梨県・四年深沢千秋ちゃんの絵)

六年 田村 芳江
村の音楽会の練習にも

「カセット・レコーダーを送られた方、お元気ですか。いまこちらでは、山々の木の葉が紅葉しています。山をながめていると秋らしく感じます。

いま学校では村内の音楽会の練習が始まっていますが、そのときも、時々カセット・レコーダーを使っています。

カセット・レコーダーは、ぼくたちの生活のなかでもとても大事な役割をはたしていると思えます。

こんな便利なカセット・レコーダーをいただいた、どうもありがとうございます。

山口県阿武郡福栄村立平田小学校
六年 藤山 進

先生が私たちの知らぬまに

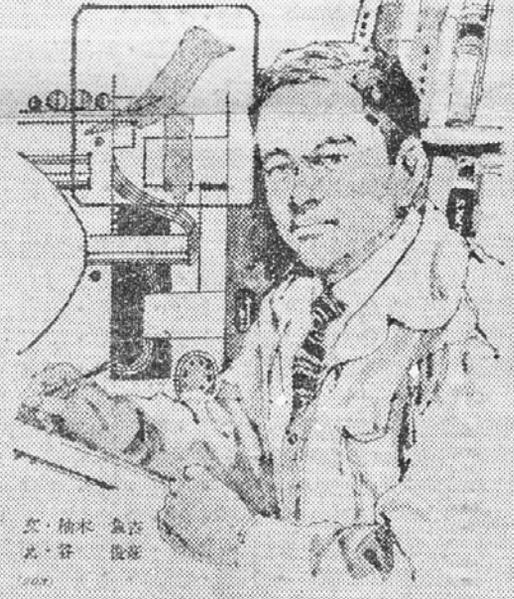
「カセット・テープレコーダーを寄贈していただき誠にありがとうございます。

私たちはこのまもなく、自分たちでやった練習を吹きこんだり、あるいはもうすぐ学芸発表会がありますので劇の練習にも使おうたり、また遠征のラジオ放送を聞いたり、時には私たちが知らないう

その1

続き

伝記物語 テレビの父 高柳健次郎



文・鈴木 昌吉 挿絵・鈴木 昌吉

「雑誌で、人の事が書かれるのは、人の事がたまたたつて書かれるはずだ。そうあって、著者は努力を要した。」

ちに、先生が私たちの授業の様子を吹きこんでいる時ささめりま

自分たちで自由に調節できるよ
うになりましたし、自由時間のひ
まを見つけて、毎日毎日休むひま
もなす聞いておられます。

岩手県岩手郡玉山村
魚橋分校魚橋中学校 二年
千葉 美代

「テレビの父」に ボクもなりたい

「テレビの父 高柳健次郎」の
がたり」は、昨年の十一月号「小
学四年生」「小学五年生」に紹介

されたことはご存じの人も多いで
しょうし、また「少年サンデー」
土頁「土三・二十日号」には劇画
「フォーチュンの前髪」（石原春
彦先生画）も掲載されました。

フォーチュンの神——この幸福
神には前髪しかない。だから幸福
をつかむには前にまわってその前
髪をつかまなければいけない。う
しろから追いかけては幸福は

つかめない——高柳取締役は、だ
れもまたやろうともしないテレビ
の研究に目をつけて、女ごとによ
オチニンの神の前髪をつかんだ
のですが、この偉業はごもたち

の心を強く打ったのでした。たく
さん感想文が寄せられたので
す。

「おじさん、おめでとう。つい
に『イ』という文字が写りました
ね。でも、むずかしいテレビのこ
うぞう。そんなこと、二、三日も
考えていたら私は、くるい死んで
しまうかもわかりません。

おじさんが、ここまで考えたの
は、頭が良かっただけではないと
思います。たえず考えたいた努力、
荷馬車にぶつかっても考えつづけ
た根性。とてもあつうの人にはな

ならざることはあります。

おじさん、どうかこれからも長
生きして、いろいろ考えてくださ
い。私もがんばります」（鳥取県
小4・小山栄子ちゃん）

そうかと思うと、「ぼくたちは

ありふれたものを作ることして
も、たいていは半分くらいまでい
くといことですが、たったひと
とつだけ自信のあるものがありま
す。それは、図面をかいている時
や物を観望する時は、だれにも
まけない根気強さがあります。

ぼくと高柳健次郎をくらべたら
かなひませんが、自分には自分の
生き方があります」（秋田県・東
海林 威くんと、自分の特長を
再発見した人もいます。

「八びとは高柳先生をばかにし
てきまがいつかいつするなんてひ
どいじゃないかさいごまで聞いて
がんばってくれとか一ことぐらい
言ったっていいじゃないかひどい
人なぢたな」（岡崎市・鈴木啓史
くん）というように、その苦勞に
同情している人もいます。

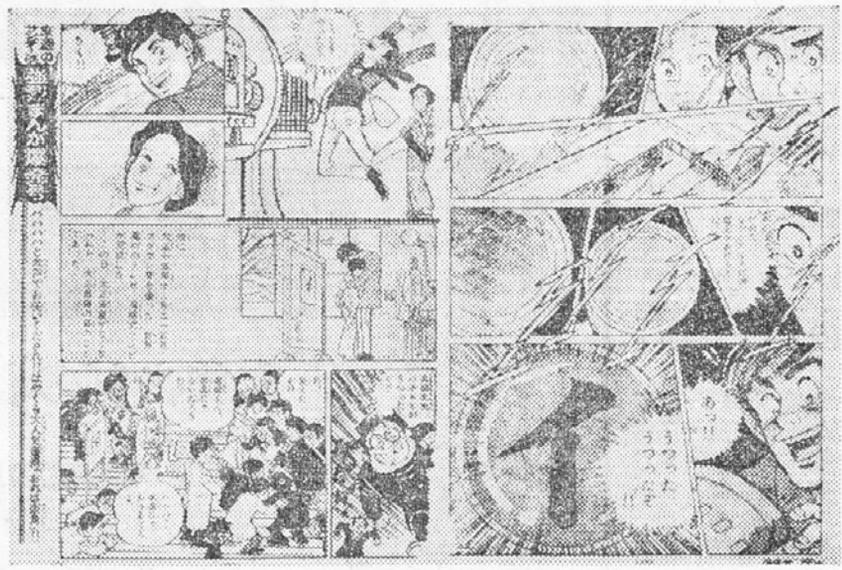
「この人の生き方をまねたいと
思いました。

ぼくはこの作品から、お金でか
えない人間のそこ力と、努力とい
うことを知りました。ぼくは忘れ
ないでいようと思えます」（大阪
府・鈴木誠治君）と考えた人。

「高柳先生はすごいな。ぼくな
んかプラモデルをやつと作れるぐ
らいなのに」（北海道・向井淳く
ん）とすっかり英雄視している人
もいます。

こういふみなさんの中から、第
二、第三の偉大な業績をのこす人
があらわれてくるでしょう。

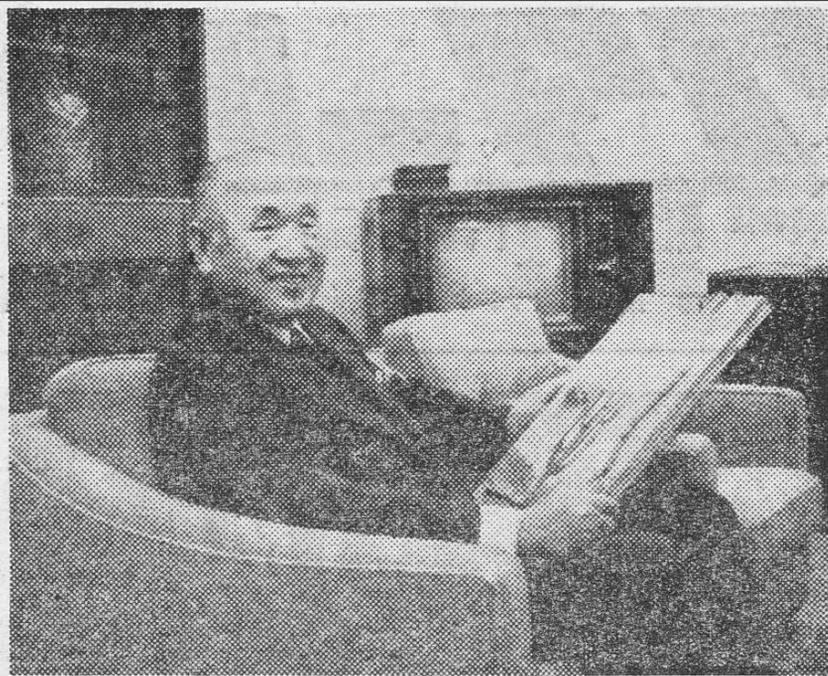
わたしたちの文化に貢献、社会
に奉仕の理念の裏はほんなどこ
ろにもあるのではないでしょう
か。



その2

高柳取締役に記念の楯

ステレオ8のリアジェット社から



記念楯を手にする高柳取締役

おり、日本をふくむ東南アジアでの特許権について独占権をもっています。

現在、日本市場に出ているステレオ8プレーヤとカートリッジは、すべてビクターと特許契約を結んで製造販売されていますが、国内では、プレーヤで七十数種、また、カートリッジで十数社がわが社と契約しています。

さる五月十七日、高柳取締役は、米国アリゾナ州ツーソン市にあるカーステレオ、カーラジオの製造販売会社リヤ・ジェット・ステレオ社から、日本での「ステレオ8特許関係」の積極的な協力に

対して感謝の記念楯が贈られました。ビクターは、リヤ・ジェット社を通じて、昭和四十二年二月からステレオ8プレーヤとカートリッジの製造について技術提携をして

高柳取締役に贈られた記念楯はリヤ・ジェット社のエドワード・G・キャンベル社長の名で贈られたもので同社の所在地であるアリゾナ州を特色づける柱サボテンの風景と、高柳取締役の写真を、これまたアリゾナ特産のアリゾナ・サンド・ストーン(砂の罌一種)の上に焼きつけ、このサンド・ストーンをさらに砂漠に成育する木・メスキート樹の荒けずりの板にとりつけたという、アメリカ西部の地方色ゆたかなユニークなものです。

この楯には「日本エレクトロニクスの父に贈る」という文字がぎざまれており、高柳取締役も「このユニークな楯を贈られて大変うれい」と話されています。

最新機種がズラリ!

ビクター・ビデオ・フェア

さる八月二十二日、二十三日の両日、東京視聴覚機器営業所の主催で「74ビクター・ビデオ・フェア」が開催されました。会場は千代田区有楽町・日生会館七階で、わが社特約店さま九店が協賛して盛会でした。

ビデオはすでに市販機器ルートで販売されていますが、従来の特機ルートでのわが社の開拓は著しいものがあり、プロ野球、芸能人、

企業内訓練などの市場に積極的に進出しています。この日は、東京視聴覚機器営業所が東京特機営業所時代からお世話になっているお店の社長、従業員さんも多数来場され、ビデオ業界をリードするわが社の最新技術を理解しようとの意気込みがうかがわれました。

当日、出展のビデオ機器は、カラーVCRアンサンブルシステム

のCE-7100型、世界で初めてタイマー内蔵による番組組が可能で、またチューナーつき裏番組録画もできるCR-6100型、再生専用のCP-5000型、カラーポータブル・ビデオ・

カメラなどビデオ先発メーカーとしての豊富な機種をそろえてそれぞれの使用ノウハウを图示。お客さまの質問にもわかりやすく、ていねいに説明、また別室ではプロゴルファーが、アマチュアゴルファーのフォームを手をとって指導し、そのフォームをカラービデオで録画再生して、自分の目でたしかめ、客観的に考えてみるという形をとっています。プロの華麗なフォームの録画再生のあとは、日本舞踊、榎若(うめわか)流の

師匠三人が踊りを披露、目もあてやかな色彩の舞いも、わが社ビデオは正確に再現、会場のふんい気をもりあげていました。

その結果、二十二、二十三日の両日の来場者、約一、三〇〇人、実績はカラーポータブル一五セツト、VCRが四五台でトータル三、五〇〇万円でした。

東京視聴覚機器営業所・視聴覚一課・八島徹市さん「自動車関係のディーラーを通じて、幅広くユーザーに買っていたらいいと思います。いままで8の好きだった人がビデオを買って楽しむというケースが多いようですね」

ビクター時報-5
発行月日 : S49.9.11
発行NO. : 140
面(頁) : 7

タイトル
「最新機種ズラリ! ビクタービデオフェア」

記事内容
「東京日生会館で開催の'74ビデオフェアに夫妻で見学」



日生会館でのビデオ・フェア (高柳夫妻も出席)

わが社ビデオ代行店 株式会社東和エンジニアリング・横浜営業所・采輪明所長「むかしテープレコーダーが発売されたときは、自分の声を聴いてみたいという人がふえたように、ビデオならば自分の声と姿の両方を客観的に録画してみることができるとは、考えてみれば本当にすばらしいことですね。わたしたちの営業所では学校市場に深い関係を持ち、積極的な営業をすすめています。一般の所得も徐々にあがってきていますし、これからが楽しみです」

高柳取締役役に勲二等瑞宝章

秋の叙勲よろこびの受章

高柳取締役はさる十二月二日の秋の叙勲で、勲二等瑞宝章を受章されました。

「テレビの父」として、内外の高い評価を受けている高柳取締役は、昭和四十四年四月の春の叙勲でも勲二等瑞宝章を受けておられます。

今回の受章は、明るさと色彩の鮮明さで群をぬくカラーテレビジョン「純白カラー」の開発指導、現在のVTR、VCRの原型となったヘリカルスキャン方式二ヘッド型VTRの考案、VCRの開発指導、さらには世界的なディスクリット4チャンネル・システムCD-4の開発指導などに對するものです。

なお同章の伝達式は、十一月十二日に宮中で行なわれ、勲章および勲記が田中総理大臣から伝達されます。

受章の喜びを、高柳取締役はつぎのように話されました。

「素晴らしいことで、ただただ感謝しています。これも関係者みなさんのご努力、ご協力のおかげであり、いわはそうしたみなさん

の功績でもあると思います。テレビジョンの研究に取り組ん

で、このうちちょうど五十年になりました。昭和二十八年の白黒テレビ放送開始から現在まで、テレビジョンの発達はめざましく、う

るおいある生活、あるいはエレクトロニクス産業発展などに役立つことができたと思っています。自分の研究したブラウン管の方式が採用され、わたくしの生きて

いるうちにこれほどまでに普及したと、そしていまなお研究を続けることができる——。これだけで十分な喜びです。これまでやってこられたのも、ビクターにおればこそであり、その点も深く感謝しています」



受章の栄に輝く高柳取締役

みなさんのおかげ

高柳取締役は、「わたしはただみなさんのジャッポになっただけ」と関係者の功績を高く評価されることも、さく夫人の内助の功にも感謝されています。

「研究研究で経済的にも大變苦

勞しましたが、妻は不平をいわずほがらかに見守ってくれ、資金もなんとかやりくりしてくれました。わたくしの仕事に理解をもちてくれたからでしょうが、こうした協力がなければ、ここまでやってこれなかったでしょう」

高柳取締役は、明治三十三年一月のお生まれですから、この七十五歳。しかし、四十四年の勲三等受章までに、共同出願をふくめて累計百件以上の特許、実用新案をもちたれており、またそれ以降も、内外の特許権利の発生しているものがすでに四十五件もあります。これは、いまなお研究に打ちこまれ「現役」として活躍されていることをはつきり示すものであり、多くの技術者は範とすべきではないでしょうか。

いまなお「考え、研究する」とが趣味」といわれる高柳取締役ですが、これからはますますこの活躍をお祈りしたいものです。

「研究研究で経済的にも大變苦

ビクター時報-6
発行月日：S49.11.11
発行NO. : 146
面(頁) : 1

タイトル
「勲二等瑞宝章
秋の叙勲でよろこび
の受章」

記事内容
「受章の喜び、皆さんの
おかげ、夫人の内助
の功にも感謝」

感謝と敬意をこめて



全員のさかんな拍手の中、会場を出られる百瀬相談役と高柳顧問

有難うございました

百瀬、高柳両役員を送る会

「長い間ありがとうございました」——さる十一月三十日、東京港区のホテル・オークラで、百瀬相談役、高柳顧問を送る会が催されました。

この日は、役員、部長会メンバー、若組三役のほか、ビクター音産役員、部長、関係会社社長、協力会役員、芸術家クラブ理事ら百七十五人のみなさんが出席、これまでもおふたりに対する感謝と敬意をこめて、おふたりをお送りする会は午後四時に開かれました。百瀬、高柳両役員が一同の拍手の中を入場され、松野社長が「ささやかな私共の気持ちをお受け止めていただき、懐旧談に花を咲かせてください」とあいさつされたのち渡辺はまきさんといっしに乾杯されました。

両役員も、かすかすの思い出を

お持ちながらあいさつされ懇談にうつりました。

橋幸夫さんが「潮来笠」と「いつでも夢を」を歌うというハプニングがあったり、また協会の菊池副会長が歌ったり、会にはぎわいでしたが、午後五時三十分、全員がおふたりのために心をこめて「蛍の光」を合唱すると、会場は厳しゅうくムードにうつまれました。一同のさかんな拍手に送られて、百瀬、高柳両役員は万感こもごも手をふりながら退場され、盛会のうちに会は幕を閉じました。

ビクター時報-9
発行月日 : S50.1.21
発行NO. 151
面(頁) : 4-5

高柳先生とオーディオ・ビデオ

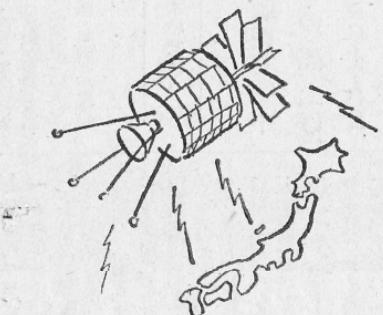
タイトル
「高柳先生とオーディオ・ビデオの夢を語る」

記事内容
「オーディオとビデオの若手社員2名と夢を語る座談会」

その2

オーディオとビデオの普及は、消、中央局だけで、全国へ普及して行く。...

こうすれば、ビデオは普及



オーディオの普及は、消、中央局だけで、全国へ普及して行く。...

音のないレコード?

オーディオの普及は、消、中央局だけで、全国へ普及して行く。...

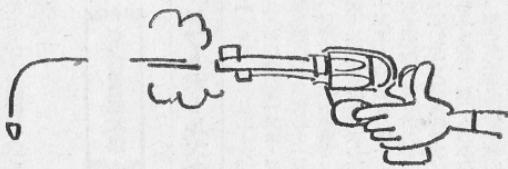
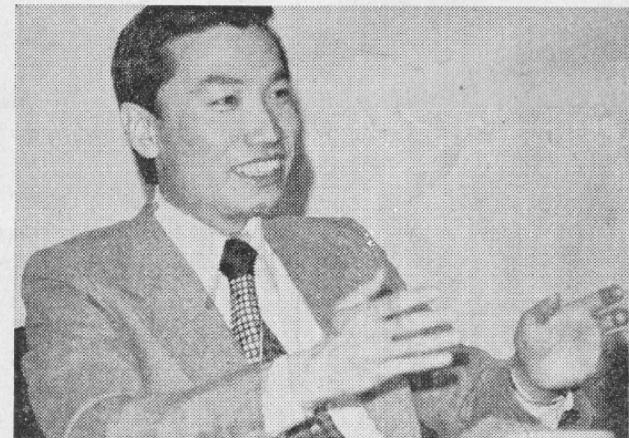


Table with columns for dates (21 to 31) and program details including 'ビクトロン演奏' and 'CD-4レコード'.



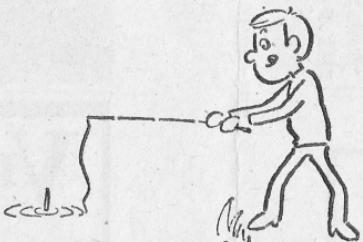
高柳先生「そうですね。たまたま忘れていたのは、ステレオ録音機も音は頭を割ったりするのには使われた。...



「ビクターは幸せです」と高柳先生
「オーディオとビデオの普及は、消、中央局だけで、全国へ普及して行く。...

オーディオ・ビデオは底なしの池
何が釣れるかたのしみ

高柳先生「そうですね。このへんはわが国は西欧に比べ、遅れていてこれからは、遅れずに進んでいく。...



高柳先生を招いて テレビの原点探る

日本映像学会研究会

さる七月十四日、虎ノ門のビデオセンターVICで、日本映像学会のテレビ研究会がひらかれました。

おなじみの小林はくどう氏の司会で、今回は「テレビの原点と映像伝達」をテーマに、テレビジョン技術の大先輩・高柳健次郎先生を講師にお招きして、研究の苦心談から、最近先生が完成された色彩理論まで、約二時間にわたってうかがいました。

◇ ◇

高柳先生が研究を志した大正十二年当時は、いまと違って機械式走査(ニポー円盤)による撮影。

加えて真空管、ブラウン管などのキーパーツも原始的な状態でしたから、研究を進める上での苦勞はたいへんなもので、ほとんどの識者が「テレビなんて無茶な代物はやるだけムダだ」と、まじめに取り上げようとしなかったほど。しかし大正十三年に英国のペアードが世界で初めて、テレビの実験に成功するなど、一部の技術者



最近の高柳先生(本社で)

の手で、テレビは徐々に形づくられてきました。

その中で「実用的なテレビは、走査線が四〇〇本以上でなければいけない。だから、いまこそ機械的に劣るものの、将来を考えて電子式に目標をしばらく」と考えた高柳先生は、ブラウン管の改良や積分方式撮像など、多方面に地道な努力をつみ重ねました。

これは、昭和八年のツボルキン博士のアイコノスコープ発明を機に、一躍高級テレビジョンとして脚光をあび、昭和十六年に予定された東京オリンピックをめざし、NHK技術研究所で完成が急がれたのでした。

先生は次のように話されました。「ベルの電話の発明が伝えられたころ、世の人は相手の顔を見な

がら話ができたら——と考え、多くの科学者、技術者がテレビジョンを実現する手段を模索しましたが、増幅の方法もないままに五十年ぐらいい忘れられていたのです。私が研究を始めたころは、真空管がでたり、いろいろな条件もとのいはじめて、世界的に研究が再開された時だったのですね。知れば知るほど、テレビの奥深さにはおどろかされます。

それからまた五十年経ったいまテレビはカラーになり、明るい部屋で十分見られるようになったが、また大きく拡大したり、画の精細度をよくするなどの面では、不十分といえます。この三十年とか五十年の間に、第二段階のテレビが出現するもの、と期待します」

ビクター時報-10
発行月日 : S54.8.10
発行NO. : 253
面(頁) : 5

タイトル
「(映像学会)高柳先生を招いてテレビの原点探る」

記事内容
「VIC虎ノ門で日本映像学会テレビ研究会に講演」

高柳先生が文化功労者に

テレビジョンの開発で



高柳先生

五十五年度の文化勲章受章者（五人）と文化功労者（十人）が十月二十四日、発表されました。このなかで、わが社の高柳健次郎先生（現顧問）が晴れの文化功労者に選ばれ、十一月四日、東京・虎ノ門の国立教育会館で顕彰式が行われます。

高柳先生はご存じのとおり、わが国テレビジョンの生みの親として世界的に知られています。今回の選定もテレビジョンの開発というところで、わが社のみならず業界の榮譽でもあります。

高柳先生は昭和二十一年に入社されて、常務取締役、専務取締役、副社長——とわが社技術部門の最高責任者として活躍されてきました。

その間、先生のご活躍は紫綬褒章の受章（30年）、勲二等瑞宝章受章（49）と国家からも認められ、今回はまた文化功労者に選ばれたわけです。

高柳先生はこんどの選定についてつぎのように話されました。「全く考えてもいなかったことのでびっくりしましたが、大変ありがたいことだと思えます。

テレビジョンの開発ということでは選ばれたとのことですが、これにはもちろん私ひとりだけの力ではありません。多くの先輩や同僚、その他の方々の協力をいただいた賜物で、この機会にあらためて深く感謝いたします。

思えば、私が研究していたころはテレビジョンも幼稚なものでした。こんなにまで発達するとはいささか予想外の感があります。

テレビジョンは文明の利器といえるでしょう。使い方さえ正しければ、今後かわれわれの暮らしに大きく役立つものと信じます」

先生が世界初のブラウン管方式による受像に成功されたのが大正十五年。昭和十年には全電子式テレビジョンを完成し、いらい2ヘッドVTR（34年）、放送用2ヘッドカラーVTR等々、先生の功績はわが社のみならず、広く世界的に認められるものです。先生はいま八十一歳ですが、今後ますます活躍していただきたいものです。

高柳先生おめでとうございます

大いなる栄誉たたえ

「文化功労者」受彰祝賀会

十二月二日、高柳健次郎先生の「文化功労者」受彰祝賀会が東京・内幸町の帝國ホテル富士の間で盛大に開催されました。これは、ことし文化功労者に選ばれた先生の栄誉をたたえ、先生とゆかりの深かったみなさんが発起人となって開催したもので、この日は政・財界、学会、業界関係者二百七十人が参集し、大変な盛会でした。なお、わが社の松野会長、宍道社長も、それぞれ発起人の一人であり、また高柳先生の御教とあつて、わが社はこの運営に全面的に協力をしました。

夕刻六時、司会のNHK・後藤美代子アナが先生の来場を告げると広い会場に湧けるような拍手がおこりました。その中をスポットライトをあびて高柳先生と妻が元氣な足どりで、じこやかに入場され、中央ステージ左手に着席されました。

まず、発起人の一人、丸山健・静岡大学学長が会の趣旨を簡潔に説明して、先生の母校からの祝詞を伝えながら開会のあいさつ。続いて、かつて電波法、放送法の審議やテレビ信託増城決定の論争の

ころ、行政サイドから先生と関係深かった新谷三郎・参院議員が当時の数々のエピソードを披露しながら、先生の業績をたたえました。次に、浜田成徳・元電波管理局長が「先生の愛彰はむしろ遅すぎた」とユーモアをまじえ「日本の科学技術は常にアメリカに追随しているといわれてきたが、高柳先生のテレビジョンの考案はアメリカより早かったのではないか。この機会に先生ご自身からお答えいただきたい」と会場をわかせました。

また、坂本朝一・NHK会長は昭和十四、五年当時、東京オリンピック（大戦はつ発のため中止）をめざして先生のもくテレビ実験放送に取組んだことを回顧し、ごんごもいっそうのご遺志を、と祝詞をのべました。

この日、海外出張中の進藤貞和・日本電子機械工業会会長にかわり、高井敏夫・同会専務理事の発声で、乾杯。続いて、レクチャーアーティスト・井上望さんから花束が、浅野賢益・民放連会長から記

し、もっともっとテレビジョン関係にご協力したい」と力強く語られました。また、祝詞での浜田氏の問いかけに答えて、先生は感懐深げに當時を回想しながら、あらまし次のように語られました。

「私は大正十二年にテレビジョンの研究を志し、当時外国では機械式でしたが、最初から電子走査方式をめざしました。大正十五年十二月二十五日、大正天皇のおかぐれになったその日、ブラウン管上に「アイ」の字を写し出すのに成功しました。その後昭和五年、現在のような多極真空管を完成しました。その翌年ドイツから発表されたその一、二年後ツポルキン博士がキネスコープを発表されました。ですから私は受像ブラウン管については先べんをつけたといえることができます。

「結婚五十五年、いじもアテン」に考案しましたが失敬、昭和五年に研究を再開し、人間の眼の構造からヒントを得て、私なりに考案し、積分法とを付け、出願しました。その後ツポルキン博士がアイコノスコープを發明したわけですが、そのオリジナルとくらべると、積分法の方が原理的に早かったといえます。しかし積分法はいくらやっても実現しませんでした。（当時の日本の電子技術、産業は極度に貧弱であった）昭和九年にツポルキン博士にお目にかかった時「日本にもアイコノスコープを出願したが、君の積分法があったので成立しなかつた」と申されました。その翌年、日本でもアイコノスコープと同様の撮像管を完成することができました。

「私がおお一人でお二人でゴルフを楽しませ、いっそうの活躍をお祈りいたします」午後八時、先生と妻は宴会客の一人一人に敬礼され、あるいは手をとって感謝を伝えながら拍手の中を退場されました。

最後に、宍道社長があらまし次のようにあいさつして、祝賀会は終了しました。

ビクター時報-12
発行月日：S55.12.16
発行NO.：262
面（頁）：3

タイトル
「高柳先生おめでとうございます、大いなる栄誉たたえる」

記事内容
「12/2 帝国ホテルで文化功労者受彰祝賀会、270名参加」



花束を手にステージ中央に立つ高柳先生ご夫妻

ビクター時報-13
発行月日 : S56.3.1
発行NO. : 286
面(頁) : 6

タイトル
「文化功労賞をお祝いし高柳先生に油絵贈る」
記事内容
「社内有志1800名で中谷泰画伯の油絵を
2/4 自宅に届ける」

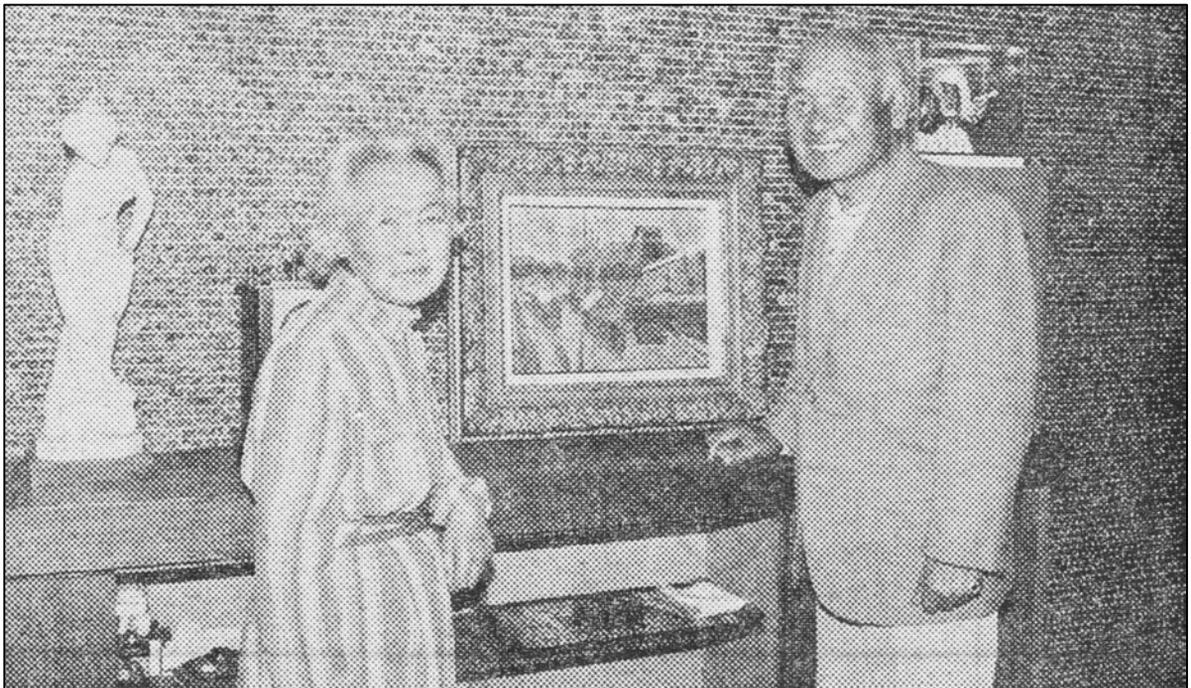
高柳先生に油絵贈る

文化功労賞をお祝いして

昨年秋、高柳健次郎先生が文化功労者選ばれたことはご存じのとおりですが、このほど社内有志千八百人の賛同を得て、高柳先生に油絵をお祝いとしてお贈りしました。

二月四日、秘書室・福本室長と人事部・宮坂課長が神奈川県逗子市にある先生の自宅へこの絵をとどけましたが、先生は「みなさんのご厚意に感謝します。この絵は応接間の壁にじつにぴったりなのでさっそく飾ります。ほんとにありがとうございます」と喜んでいらっしやいました。

この絵はわが国洋画壇を代表する一人、春陽会会員の中谷泰(なかに たけし)画伯の手になるかたに・やすし)画伯の手になる風景画(六号)。湘南の海をのぞむ高台にある先生の自宅、日ざしのいっばいにさしこむ応接室に、しっとり落着いたタッチがとても似合っています。



中谷画伯の絵を中心に喜びの高柳先生ご夫妻

『テレビの父』に かがやく栄誉



よろこびの高柳健次郎先生（自宅で）

高柳先生が文化勲章受ける

十月二十日、政府は今年度の文化勲章受章者（五人十内定一人）と文化功労者（十人）を決定しましたが、この中でわが社顧問の高柳健次郎先生が、多年にわたるテレビジョン研究に対して栄えの文化勲章を贈られることになりました。文化勲章は

きたる十一月三日、皇居で伝達されます。昨年、文化功労者として顕彰され、こんどまた文化勲章に輝く高柳先生の偉大な業績をたたえるとともに、先生のひらいた道をわたくしたちの手でいっそう世の中に役立つよう玉成させてゆきたいものです。

高柳先生は、いまわたくしたちが毎日見ているテレビの仕組みを文字どおり基礎から築きあげた、技術の大先達。テレビのタカヤナギとして、世界的に知られています。

先生は昭和二十一年に入社されてから取締役技師長、常務、専務、副社長として活躍、わが社技術部門の最高責任者として多くの研究開発を指導され、総合力で強い商品を生み出すわが社の社風をも築かれました。

その間、先生は多年の業績に対して三十年紫綬褒章、三十六年には第一回世界テレビ祭（スイス・モントルー）で表彰、四十四年勲三等瑞宝章、四十九年には勲二等

瑞宝章を受け、昨年十一月には文化功労者に選ばれるなど、技術者としての世の中への貢献をおおやけに認められてきました。

このたびの文化勲章受章は、先生のこれまでの活動に対する最大の栄誉であり、わが社をはじめ業界全体の名誉でもあります。

先生は八十二歳の、高齢ながらもたいへんお元気で、毎年十月の技術大会にはお見えになり、高柳賞を通じて、後進の技術者みなさんを暖かくはげましています。

テレビ完成に
ささげた半生

高柳先生がテレビジョン研究をこころざしたのは、ラジオさき白

続き

ビクター時報-14
 発行月日 : S56.11.1
 発行NO. : 300
 面 (頁) : 1

タイトル
 「テレビの父に輝く栄誉、高柳先生が文化勲章
 受ける」

記事内容
 「10/20 56年度文化勲章 (5名) 発表、11/3皇
 居で顕彰式」

本にまたなかった大正十二年、神奈川県立工高教諭時代のこと。

またまた横浜の書店で見かけたフランスのアマチユア雑誌に、当時はまったくの空想段階に過ぎなかったテレビがマンガとして掲載されているのを見たときでした。

母校で「いま流行のテーマでなく、十年、二十年先に欠かせないものを研究すれば、必ず世の中のためになる」と恩師にいわれていた高柳先生は、これを天啓と受けとめ、テレビの研究を決意したのです。

当時は丸型、ナス型の真空管がやっとできるようになったころでその性能も、ほかのパーツの品質も低く、研究の苦心は想像を絶するものがありました。ほとんどの有識者、専門家が「居ながらに遠くが見えるなんて無茶なものは、やるだけムダだ」と、まじめに取り上げようともしなかったほど。

しかし、大正十三年に英国のベアードが、世界で初めてテレビの実験に成功するなど、一部の技術者の手でテレビは徐々に形づくられてきました。ただこれらは二ポ一円盤など機械的走査方式のため走査線数も少なく、実用的な画像からはまた違ったものでした。

その中で「将来のテレビは走査線が四百本以上の高級な方式でなければいけない」と考えた先生は、ゆたかな可能性を秘めた全電子方式にマトをしぼり、浜松高工教授としてブラウン管の改良、積分方

式撮像など、多方面に精力的な研究を重ねました。

この「高柳式テレビジョン」は昭和八年のツボルキン博士のアイコノスコープ発明を機に脚光をあび、先生は昭和十二年にNHK技術研究所に移って、十六年開催と予定されていた東京オリンピックをめざして完成を急いだのです。第二次大戦後、テレビは商品化されて多年の夢だった本放送がはじまり、やがてカラー時代へと進んでわたくしたちの必需品となりました。

しかし世界中のテレビ、放送局のカメラなどには、往時の高柳先生の苦心の結果が、いまなお脈々と息づいているのです。

社員みなさん
 のおかげです

十月二十二日、お祝いの電話や来客、祝電が殺到してきて、いまの神奈川県逗子市の自宅に、高柳先生をお訪ねしました。

先生は連日のマスコミ攻勢にもお疲れの色も見せず、おだやかな笑顔で次のように話されました。

「今回の文化勲章受章はほんとうに突然のごことで、びっくりしています。きよ年の文化功労者顕彰につづいてのごことで、たいへんな名譽にうれしく思っています。

これもひとえに、会社のみなさま方のおかげです。

私はテレビジョン、あるいはVTRなどの開発にアイデアを出しただけで、それをひきついで現実の商品にしてくださったのはみな

さんです。

それが、いま、ほんとうに立派な商品として世界に進出している姿は、じつに喜ばしいことです。

これこそ、ビクターの理念である「文化に貢献、社会に奉仕」の真実の姿ではないでしょうか。ほんとうにありがとうございました」

一方、先生の永年の研究生活を支えた内助のご苦心は、とかわわらの奥さまに水を向けると、「夫婦ですから、あたりまえのごことで。それにもう昔からの習慣ですから、苦労だなんて感じてはおりませんですね……」と、ごやかにかにすがすがしいお答えでした。

純白カラー、VHS、VHD……と続かわが社技術の源泉を創りまたこれからも世の中に役立つおきな夢を追ってやまない高柳先生。このころからお祝いのごほうびを述べさせていたたくとも、ご夫妻のいっそうの多幸を祈りつつ、さわやかな気持ちに満たされずして辞去しました。(松本記)

その2

タイトル

「先進の個性示す、（55周年ビクター総合展）
6000人来場」

記事内容

「12/2-5 ニューオータニ、国際パーティー会場
で来賓と歓談」

ビクター時報-15
発行月日 : S56.10.16
発行NO. : 320
面(頁) : 4

先進の個性示す



お元気で創立55周年を喜ぶ高柳先生（国際パーティー会場で）

2面でお伝えしたとおり、会社創立五十五周年最大の呼びもの「日本ビクター総合展」が、四日間わたって東京・赤坂のホテル・ニューオータニで開かれ、来日の各国JVCディーラーの方々をはじめ、国際的にもお大きな反響を呼びました。また、これに関連して国内、海外のいろいろな行事も催され、特約店さまをはじめ、日ごろわが社がお世話になっている多くの方々に感謝の意を表しました。

クに円型のステーションが設けられ、タッチで楽しめる「総合AVコン美しいキモノ姿から最新のパンツントロール」システム（デジラルック、さらに水着、フォーマル、ウエスタンとコスチュームもとりどりに、リズムにのって美女群がからやかに乱舞しています。あるいはGZIS3カメラを手に、あるいはHRC3を腰に、華麗な展開をみせた世界初のこのI技術による立体撮像カメラ（中シヨ）はたいへんな人気を集め、研）が、それぞれにクンを競って

六千人が来

「日本ビクタ

軽くて使いやすいわが社ビデオを来場者に強く印象づけました。

明日の生活文化

高める新技術

にぎわう中央広場をとり巻くように設けられたのが、「開発技術コーナー」。

ここには、ステップバイステップでテイクオフ中のビデオディスクVHD（開研・VHD管）、VHDやVHSから将来の文字多重放法など、あらゆるAV機器がワ

総合展のメイン会場となったのは、ニューオータニの敷地ある宴会場の中でも随一の広さの「鶴の間」。

本社や各独社のみならずがにこやかな表情で、そくそくお見えになるお客さまに「あいさつしている総合受付を過ぎて、会場前室にさしかかると、左手にわが社五十

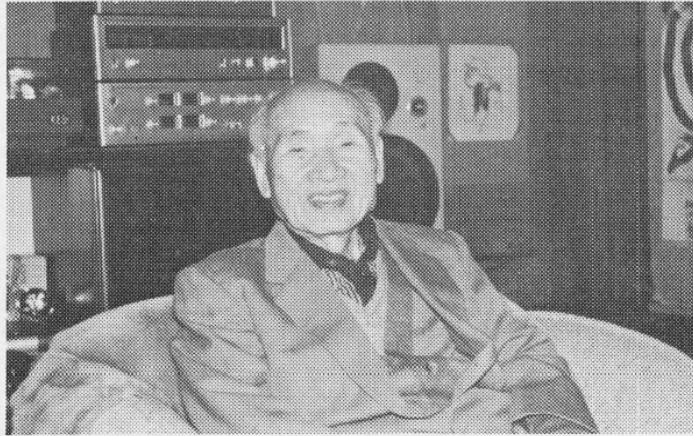
五年の「歴史コーナー」、右手には東京ビデオフェスティバルをはじめとする「文化活動コーナー」と、モータースピーカ・精密部品、三事業部の「基幹部品コーナー」があります。

これを抜けると、鶴の間が目前にパッとひらけます。中央には、先進の個性をパッ



高柳先生が技術振興財団を設立

テレビジョン研究に半生をささげられ、またわが社技術の風土をつくりあげられた高柳健次郎先生は、私財約二億円を投じて財団設立を進めていましたが、十月三十一日に科学技術庁から正式認可を受け、電子科学技術振興財団として活動が開始されることになりました。



財団設立を語る高柳先生 (選手のご自宅で)

高柳健次郎先生は、多年にして奉職。このころ先生は語つたるテレビ技術への貢献に、学術の勉強で横浜のフランス領より、五十六年十一月に文化勲章を授けられたほか、紫綬章を授けられたほか、紫綬章(三十年)、世界第二回テレビジョン祭典表彰(スイス・モントルー、三十六年)、勲一等瑞宝章(四十九年)、文化功労者(五十五年)など多くの栄誉に輝きました。

タイトル
「高柳先生が技術振興財団設立、独自の視点と着想の研究奨励」

記事内容
「私財2億円投じ財団設立、電子科学関連研究の奨励助成」

いずれも機械的な走査のため走査線が数十本(現在のNTSC方式は五百二十五本)という粗い画面しか得られず、商業放送など実用化はとうてい期待できませんでした。

わが社技術の源流つくる
高柳先生は、戦時中は海軍

独自の視点と着想による研究を奨励

たことから、このテレビ放送に命ぜられて電波兵器の開発が実現のため高柳先生は昭和十二年、NHKの初代テレビ部長に就任、三百人の研究員とともにカメラ、放送機器、受像機などの完成を急いだのです。

こうして先生によってひろがれたテレビは、第二次大戦で一時中断したものの、その後多くの後進の力で今日の隆盛にいたり、文化、娯楽、産業など多方面にはかり知れない恩恵を与えています。

(((音流)))

近ごろどっしりした本格小説がなくなり、柳生流に挑戦、柳生流のびしい思いをのびたの、高弟松石衛門が水きわだだが、毎日新聞に九月から連載されている津本陽打ち破るころは、胸がすかっとすると同時に、は久々の傑作だと思つた。また主人公の兵衛助は少年時代が、いい。

これらビクターをはじめNHKや文部省といった、仕事にまつわるいろいろな方面の方々のおかげであると思つて



技術大会で展示を見る高柳先生 (9/28、横工体育館で)

高柳記念電子科学技術振興財団の概要
【事業内容】科学技術の振興を図り豊かな社会の創造に寄与するため、次の事業を行う。

- ①電子科学技術とその応用に関する研究に対する助成
- ②電子科学技術とその応用に関するすぐれた研究に業績あった人の表彰
- ③テレビジョン工学に関する研究開発の歴史にかかわる資料の保存、展示および活用
- ④その他、財団の目的を達成するために必要な事業

【基本財産】一億円および日本ビクター株式会社五万株
【役員など】理事長/高柳健次郎(予定) 理事/矢野幸一(テレビジョン学会会長、NHK専務理事)、高柳俊(NTBSブリタニカ常務)、高柳暁(筑波大教授)、監事/平田雅彦、岩田恒男、評議員/大塚久雄(東大名誉教授)、茅誠司(元東大学長)、川原正人(NHK会長)、小松宏治(日本電気会長)、斎藤成文(東大名誉教授)、真藤恒(電々公社総裁)、武安義光(動力炉核燃料開発事業団監事)、松下幸之助(松下電器産業相談役)、松野幸吉(日本ビクター会長)、森田清(東京工業大学名誉教授)、山西由之(東京放送社長)

【事務局】東京都世田谷区北沢四一六二一

持株会だより

| | |
|------|---------|
| 10月度 | |
| 加入者数 | 2,261人 |
| 加入口数 | 22,890口 |
| 加入価格 | 2,020円 |
| 当り口数 | 0.54株 |

竹内科学技術庁長官ら多数を迎え 高柳先生の財団設立披露



さらに喜ばれるものに、と高柳先生

財団を作られた——まことに頭の下がる思いがします」と、それぞれ祝詞を述べられました。

つづいて、NHKの川原会長のあいさつと発声で全員が乾杯、財団発足を祝うとともに、こんごの発展を祈念しました。

高柳先生は、テレビに打ち込んだご自身の半世紀を回顧し、多くの人の援助と協力に感謝して次のように話されました。

「研究者として、生きていく間に自分が考えた方式がひるく世の中で使われることはじつにありがたく、光栄なことです。このお礼に、財団を作って研究する人を援助することにしたいわけです。

私が浜松高工のとき関口校長からいただいた研究費は五百円。当時の私の給料が八十円ですから、思ったより少ないとはいっても、やはりありがたかったです。

いまは研究も非常に複雑ですから、私どもの財団の助成も当面けっして十分な額とはいえないでしょうが、研究者が自由に使えるお金としてお力ぞえできればこれに越したことはありません。みなさまのご支援で、さらに喜ばれる

11/16号でお伝えしたとおり、世界のテレビの父、高柳健次郎先生(わが社技術最高顧問)は私財約二億円を投じて「高柳記念 電子科学技術振興財団」を設立、独自の電子科学関連の研究を助成してゆくことになりました。この設立披露パーティーが

十一月十九日、東京・千代田区のクラブ関東でひらかれ、政界、電機業界、放送・通信関係などの各界トップの方々百数十人の出席をいただいで盛況でした。

十一月十九日、東京・千代田区のクラブ関東でひらかれ、政界、電機業界、放送・通信関係などの各界トップの方々百数十人の出席をいただいで盛況でした。

高柳先生がテレビをつくってくださったおかげです。今日は心をこめて司会をさせていただきます。今日「私財2億円投じ財団設立披露」のことは、海軍の研究所時代の上司だった先生に、戦後ビクターにつれてきていたたいわけですが、先生がいくつになられても新しい研究開発に目を輝かせてお

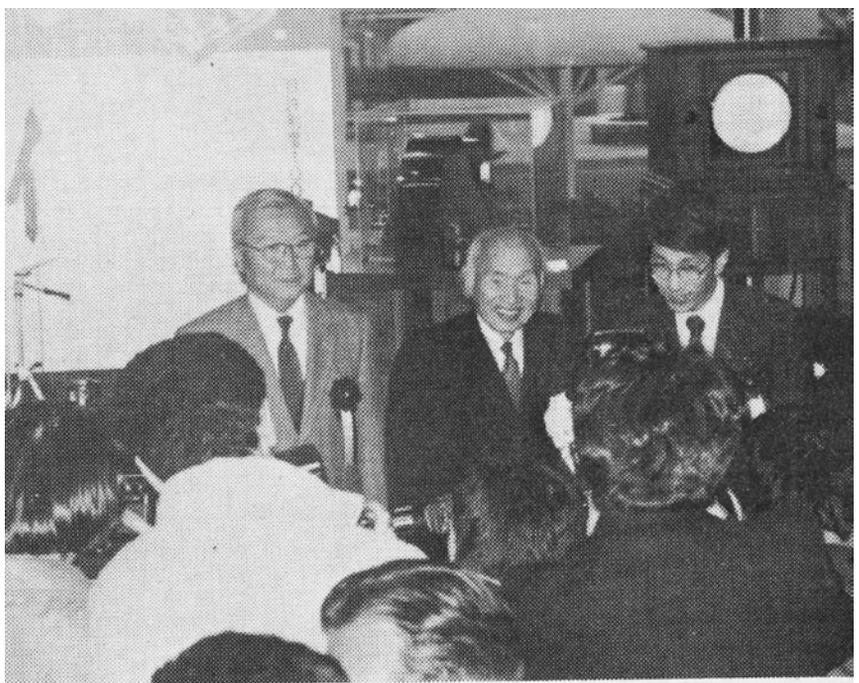
内容にしてゆきたいと思えます」
このあと、井深ソニー名誉会長は二百円盤の時代に高柳先生のブラウン管に啓発された経験を披露、「先生にはトリニトロンをほめていただくなど、いろいろお世話になりました。先生のご功績は一般の人にはなかなかわからないかも知れませんが、ユッコとテレビの全システムをつくりされたことはじつに偉大です。
いつまでもお元気で、私たちの希望の星となってください」と、ユーモアもまじえて語り、会場では先生ご夫妻を囲んでなごやかな懇親の輪がひろがりました。

タイトル

「高柳記念電子科学技術振興財団、第1回2名に助成金贈呈」

記事内容

「3/23 科学万博会場の歴史館で贈呈式、式後は記念撮影」



報道陣にかこまれた左から斉藤教授、高柳先生、榊助教授のみなさん(歴史館で)

高柳記念電子科学技術振興財団

第1回 助成金贈呈式行う 斉藤(大教授)、榊(東大助教授)お二人に

高柳健次郎先生が私財二億円を元に昨年暮れ設立された「高柳記念電子科学技術振興財団」の第一回助成金贈呈式が三月二十三日、科学万博会

場の歴史館で行われました。

この日、歴史館二階の貴賓室には財団理事長の高柳先生をはじめ理事のみなさんが列席、報道関係者多数が取材に詰めるかけるなど、午後五時から約二十分間にわたり贈呈式が行われました。

助成の対象は、九州大総合理工学研究科・斉藤省吾教授の「高分子電子物性および光感応性有機材料の研究」と東京大学生産技術研究所・榊裕之助教授の「量子マイクロヘテロ構造における電子の波動関数の制御とそのデバイス応用」の二件で、それぞれ助成金二百万円が高柳先生から贈られました。

高柳先生は「存じのとおり現在のテレビ映像の基本理を発明しましたが、その研究中に苦勞したことは研究費用の不足でした。最後の手段として奥さまの持参金まで研究費に回ったといわれま

高柳先生は「研究には資金が必要で、それがわずかなものでも自分の思うように使える金であれば非常に有効で役に立つものです」と話しています。

そうした先生ご自身の体験から、独創性と可能性を秘めた研究に取り組んでいる人たちを援助しよう——というのがこの財団の趣旨で、今回の助成対象となった二つの研究もユニークな着想からアプローチされており、将来の電子工学分野に新しい道をひらくものとして期待されています。

なお贈呈式のあと、同館一階に展示されてある復元されたテレビジョン第一号機の前で先生をかこんで記念撮影が行われましたが、たまたまいあわせた藤枝市立青島小学校の児童たちが「あっ、高柳先生だ」と先生をとりかこんで記念写真をとる、というほほえましいハプニングもありました。

タイトル

「高柳先生の胸像完成、静岡大学工学部に偉大な業績たたえ」

記事内容

「6/1 静岡大学工学部の電子研究所前に先生の胸像完成」

高柳先生の胸像完成

静岡大
工学部
偉大な業績たたえて

高柳健次郎先生の胸像がこのほど完成、六月一日に静岡大学電子工学研究所玄関前で除幕式が行われました。

この胸像は静岡大工学部の前身、旧制浜松高等工業学校の教授であった高柳先生の文化勲章受章を記念して、同大学の卒業生らで組織している浜松工業会が建設したもの。

除幕式は同工業会創立六十年記念行事の一つとしてこの日の午前十時三十分、浜松市城北三丁目にある同大工学部で行われました。

高柳先生、お孫さんの恵里さんをはじめ関係者二百人がこれに出席、恵里さんと白井浜松工業会々長が胸像をおおう白い幕をはずすと、いっせいに拍手がわきおこりました。

この胸像の制作は太田儀八前静岡大教育学部教授。等身の一・三倍でブロンズ製。台座はアフリカ産の黒御影石を

けずってできており、中央部が階段状になって先生のテレビの発明、研究に尽くした業績が年代順に下からぎざまれています。

なお浜松市には、高柳先生

がブラウン管にはじめてうつしだした「イ」の字をきざんだ「テレビジョン発祥の地記念碑」も西部公民館まえにあります。

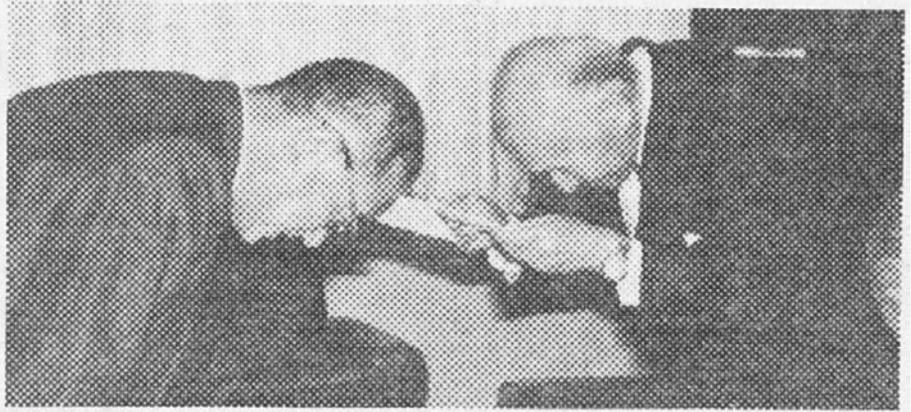


完成した高柳先生の胸像 (静岡大電子工学研究所玄関前)

電子科学技術振興ねがい 高柳財団に1億円

1907人の善意にも感激

わが社技術の育ての親の高柳健次郎先生が、昨年十月、私財二億円をもとに「高柳記念電子科学技術振興財団」を設立されましたが、その後、同財団の財務基盤をより強固



にして目標である日本の科学技術の振興にいつそう寄与できるよう、ことしの夏から募金の呼びかけが、財団関係者から各方面に対し行われてきました。

これに応え、わが社からこのほど一億円が同財団に寄贈されました。

十一月二十日のひる少し前高柳先生は、ご長男の高柳俊樹(株)ディスコ社長(財団理事)を伴われて、本社にお元気な姿を見せられました。

八階の役員応接室で矢道社長、松野会長から寄贈目録を受けとられた高柳先生は、にこやかな表情で丁寧なお礼のことばを述べられました。

また同時に、ことし六月以降オールビクターの役員、職者有志千九百七人から寄せられた合計二千四十八万円の浄財目録も高柳先生に手渡され、先生と高柳俊理事はみなさんのご厚志をたいへん喜んでおられました。

なお、このほか、高柳財団には松下電器産業株式会社をはじめ有力企業、団体、個人有志の方々からも寄付金が寄せられており、世の中を益する高柳先生の壮大なロマンはいよいよおおきく実ろうとしています。

ビクター時報-20
発行月日 : S60.12.10
発行NO. : 383
面(頁) : 1

タイトル
「電子科学技術振興ねがい、
高柳財団にわが社から
1億円寄贈」

記事内容
「11/20 先生に目録及び
社内有志1907名の浄財
も贈呈」

高柳財団の60年度助成金

坂内 大教授 東教 助 3 研究者に 第1回高柳記念賞授与も



授与式の高柳先生

電子科学技術の振興を願って、高柳健次郎先生が「昨年」とはじめの「高柳記念電子科学振興財団」の長はじめ、先生のテレビに啓蒙された。第二回目の助成金ほかの授与式が、一月二十日夕刻から東京・大手町の工業倶楽部で行われ、この日に出版された

昭和六十年度の財団助成金

(各二百万円)は、東大生産技術研究所・坂内正夫助教「多次元データ構造上での知的記号処理による高エネルギー画像・図面処理方式の研究」、相模工大・広田修助教「光通信理論、光子通信理論に関する研究」、慶大理工学部・天野英助助手「疎行列専用並列計算機に関する研究」の、いずれも独創的な三件に贈呈されました。

つづいて「優れた独創的研究業績のあった者に対する表彰」として、第一回の高柳記念賞(各百万円)が京大工学部・坂井利之教授(テーマII OAにおける画像処理)および筑波大電子情報系・種渡清二教授(テーマII人間情報処理系)における高次情報処理機に贈られました。

授与式終了後、高柳先生は「みなさんの協力で財団も

成り立つようになりまして、お贈りできる金額は研究者のご苦労に対して十分な力になれないかもしれせん。でも私がテレビの研究中にいたたいた五円、十円の援助はほんとうにありがたかった。

私の趣旨をおくみとりいただき、またたく自由にお使い下さい。研究の潤滑油になれば幸いです」と人柄そのままに温かくあいさつされました。

科学放送振興協会がテレビ2番組を表彰

いっぽう、科学放送振興協会(理事長高柳先生)が財団からの資金で新設した、科学番組を対象とするふたつの賞の表彰も同じ会場で実施され、NTVとNHKに次のとおり授与されました。

△高柳賞(NTV/ニュートン・スペシャル)3「母なる



出版記念会であいさつする高柳先生

大地・45億年の鼓動 59 / クローズアップ「体験宇宙飛行士の条件」 60・1・8
△科学放送振興賞(NHK) 放送

テレビの 縄文時代 から20世紀へ

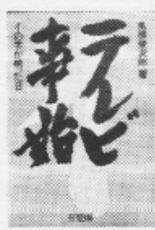
「テレビ事始」

財団助成金、高柳記念賞(十八、米寿の祝)にも当分の授与式のと、高柳先生「日ごろのおたやかな笑顔の著作「テレビ事始」(有斐)も一段と晴れやか。開刊)の出版記念会が隣接の別会場で開かれ、河野科学技術庁長官、坂本NHK前会長、河井深ソニー名誉会長、小林日本電気会長など多くの人が、途中病気になるまで、が、ゼロから出発してテレビの全体系を築いた高柳先生の偉業をたたえました。

この日はちょうど先生の満話(はあくまでも謙虚でした。この「テレビ事始」は先生

この中で先生は、かつての「自身を「おち」ぼれの小学生だった」と記されていますが、たゆまぬ努力のすえついに初志をたぬき、文化勲章を受けるに至った研究の半生から、わたしたちは能力開発、先見性、独創力、そしてリーダーシップなど、教えられるところが多々あるもの、と思われます。

高柳健次郎著「テレビ事始」有斐閣、千三百円



(このほか小学生向けに、高柳先生の少年時代を描いた「未来をもとめてひたむきに」清水達也著、千五百円、PHP研究所から昨年末に刊行されています)

ビクター時報-21
発行月日 :
S61.2.16
発行NO. : 386
面(頁) : 2

タイトル
「高柳財団(第2回)60年度助成金3名贈呈、第1回高柳記念賞も」

記事内容
「1/20 工業倶楽部で助成金授与、テレビ事始め出版記念も」

春の叙勲・褒章

高柳先生勲一等瑞宝章、

垣木社長に藍綬褒章



政府が四月二十九日付で発表した春の叙勲で、わが社技術最高顧問・高柳健次郎先生が勲一等に叙せられ、五月八日に皇居で天皇陛下ご臨席のもとに行われた親授式で、栄

の育ての親でもあります。卓越した先見性と努力と創造力により、VHSなどを通じて今日の映像文化時代への道を拓かれました。先生は今年一月に卒寿を迎

えの瑞宝章を受けました。先生はみなさんご承知のとおり現代のテレビ技術を築いた大先達であり、わが社の技術開発

えられましたがお元気で、高柳記念電子科学技術振興財団による後進の育成に当たられています。

四十九年に勲二等瑞宝章、五十六年には文化勲章を受けられ、さらに今回の叙勲で六十有余年の業績に一段と輝きを増したことは、私たちにとても大きな喜びです。

また、春の褒章では、垣木社長が藍綬褒章を受章されました。垣木社長は昭和二十三年、

高柳先生のテレビに傾倒して日本ビクターに入社。以来、白黒テレビ、カラーテレビの技術開発と量産体制確立に手腕を発揮、経営トップ就任後は開発体制強化、ソフト事業

推進、海外との産業協力などで世界の民生電子産業の発展に貢献されました。藍綬褒章の伝達は、五月十日に東京・霞が関の通産省で行われます。

ビクター時報-22

発行月日 : S64.5.10

発行NO. : 452

面(頁) : 1

タイトル

「春の叙勲・褒章、高柳先生勲一等瑞宝章、垣木社長藍綬褒章」

記事内容

「4/29 発表で49年勲二等に次ぎ受章、5/8 皇居で親授式」

ビクター時報-23

発行月日 : H2.8.10

発行NO. : 478

面(頁) : 1

タイトル

「高柳健次郎先生死去、護国寺で1千人がお別れ」

記事内容

「7/23 春から入院中の横須賀共済病院で死去
(享年91才)」

高柳健次郎先生死去

護国寺で一千人のお別れ



高柳先生は 大正・昭和・平成の三代を通じてテレビジョン開発、ならびに各種の電子技術の育成に貢献された。わが社でも高柳先生は元副社長、技術最高顧問として多くの技術者を育てられました。

高柳先生の密葬は七月二十六日午後、東京・文京区の護国寺で行われ、社内および各界の一千人がご冥福をお祈りしました。

テレビの父・高柳健次郎先生が七月二十三日夜、ことし春から入院中だった横須賀市の横須賀共済病院で、肺炎のため亡くなられました。享年九十一歳。

れ、昭和五十六年秋には文化勲章、昨年の春の叙勲では勲一等瑞宝章を授けられ、本年七月二十三日付にて従三位に叙せられました。

高柳先生の社葬は九月六日、東京・港区の青山葬儀所で、葬儀は午後一時から二時、告別式は二時から三時に行われます。



テレビジョンの開発、およびビデオなど各種の電子技術育成に大きな足跡を残された高柳健次郎先生（わが社技術最高顧問、元副社長）の社葬が、九月六日午後、東京・港区の青山葬儀所で、垣木会長を葬儀委員長としてしめやかに執り行われました。当日は大島科学技術庁長官、松下電器・松下正治会長をはじめ業界、NHK、母校関係者、業界などの千八百人が会葬、大正・昭和・平成の三代にわたる偉業とその恩恵にあらためて感謝し、先生のご冥福を祈念しました。

高柳先生安らかに 1800人が遺徳をしのぶ



会場正面の祭壇には高柳先生の業績を象徴する文化勲章、勲記などが飾られ、菊の香がただよう中に読経の声が流れて、定刻の午後一時、上野常務の司会により社葬式は始まりました。引導の儀につづいて弔辞が奉呈され、先生の温かい人柄そのままにほほえみかける遺影のもと、垣木会長は次のように遺徳をたたえました。

「先生は世界で初めてブラウン管に『イ』の字を映し出され、テレビの幕明けに第一歩をされるされたばかりか、昭和十五年にはテレビの送像システムの基礎を確立され、また戦後はテレビの技術革新、2ヘッドV

会場正面の祭壇には高柳先生の業績を象徴する文化勲章、勲記などが飾られ、菊の香がただよう中に読経の声が流れて、定刻の午後一時、上野常務の司会により社葬式は始まりました。引導の儀につづいて弔辞が奉呈され、先生の温かい人柄そのままにほほえみかける遺影のもと、垣木会長は次のように遺徳をたたえました。

先生は、テレビの父であるのみならず、私も技術者たちの父でもありました……」

技術と人生の師
会長 垣木 邦夫
大学時代にテレビジョン技術と出合い高柳先生を知ったことが、私の進路を決づけました。入社後先生には、基礎から取り組むことの大切さや、研究開発で真似や妥協をするなどという技術者魂をたたき込まれましたが、その薫陶を受けながら仕事が出来たことは本当に幸せでした。仕事のみならず人生の師と仰ぎ、お

慕いしてきた先生のご冥福を心からお祈りいたします。

技術者の幅を広げる

社長 坊上 卓郎

入社した年のある日、母校の教授のことで高柳先生

に呼ばれて以来、時折先生のお話をうかがう機会が

多くなりましたが、よく「もっと幅広く、そして未来を考

えろ」とハツパをかけられました。

旧・入江工場でラジオの

設計をしていた頃、残業で

行きづまるとベランダに出

て星空を見上げ、すぐ上に

あった先生の部屋を眺めて

いましたが、先生もあの星

の一つになられたと思うと

感慨無量です。つつしんで

ご冥福をお祈りします。

テレビの夢を追って
専務・研究 青池 仁士
開発本部長

高柳先生に直接ご指導頂

いたのは三十七年から四、

五年の間でした。毎週(研

本)部長会の席で、先生は

大学ノートにびっしりのメ

モを見ながら推進状況をチ

ェックされ、次々に新しい

テーマを提示されました。

アイデアの豊富さ、開発の進め方についての厳しい

姿勢、情勢は超人的で自ら「技術に生きるピクター」の範を示されました。

偉大な先生を偲び、ご冥福を心からお祈りします。

常任監査役 高野 鎮雄

先生を追悼、榑谷市議会議

長、斉藤静岡県知事、上原

静岡大学長も弔辞を捧げま

供

寄せられました。

親族、来賓、会社幹部の

焼香のあと二時から告別式

が行われ、社内外の千八百

人が高柳先生に最後のお別

れをしました。

祭壇が設けられた浜松市

元城町の市立体育館には一

般市民、市政および大学関

係者、地元企業代表者ら千

五百人がつめかけ、偉業を

しので献花、ご冥福を祈

りました。

会場では黙とうと市歌斉

浜松では功績 たたえ市民葬

高柳健次郎先生がテレビの研究に着手されたゆかりの地・浜松で、先生の市民葬が九月七日の午後催され



△写真は静岡新聞社ご提

故・高柳先生の偉業を しめやかに偲ぶ

政財界・業界から多数が出席

一月二十三日、東京・市ヶ谷のアルカディア市ヶ谷において、昨年七月二十三日に亡くなられた、わが社の技術最高顧問 高柳健次郎先生を偲ぶ会が催されました。

当日は、高柳財団が主催する「未来技術シンポジウ



ム」と既報の高柳記念賞の授与式に続いて行われたもので、電機業界をはじめ各界から多数の方が出席されました。

会場には、中央に先生の写真が飾られ、まわりに先生の研究生活をもの語る研究ノートや「イ」の字の受像に成功した時の「イ」の字の雲母板、趣味として嗜まれた尺八、穏やかな私生活を書いた写真などが展示されました。

会には発起人を代表して、日本電気の小林宏治名誉会

長の献花に始まり、引続いて次のように挨拶されました。「高柳さんがテレビの研究をされている時、私どもの会社では写真電送を研究していました。しかし当時の率直な気持ちとしては、そんなことができるのかなと思っていました。でも知恵と努力でついにこの技術を完成された、このことが現在の日本のテレビをはじめとする技術水準を世界のトップクラスにしているといえるでしょう」

また、山東昭子科学技術庁長官は「科学技術が人間社会にいかに貢献していくのかということを考えた時先生の果たされた役割は本当に偉大なものだったと思います」と話されました。

続いて、松下電器の谷井昭雄社長からは「高柳先生は技術者の神様のな偉大な存在でした。最近海外に行くくと、日本はもっと科学の基礎技術で貢献すべきであ

るという声を耳にします。その意味から、先生のあげられた映像分野での創造的・先見的な業績は、我々後輩が受け継ぎ、世界のために貢献していこうと改めて思った次第です」と挨拶されました。〈写真は挨拶される松下電器産業(株)谷井社長〉

ビクターニュース-26
発行月日：10.4.1発行
NO.：618
面(頁)：2

タイトル
「V70記念事業CD-ROM社史、テレビの父・高柳先生も登場」
記事内容
「CM名作の中にカラーTV-CMで先生の元気な姿が登場」

<2>

1998年(平成10年)4月1日

Victor News

国内

V70
記念事業

CD-ROM
社史

完成

ビクターの歴史が1枚に!
見たい所を気軽にアクセス

70

マルチメディア時代の社史 ビジュアル&インタラクティブ

- ◆V70記念事業の5つのテーマの1つである『CD-ROM社史』がこのたび完成し、発刊の運びとなりました。
- ◆これは、日本ビクターの創業から今日までの70年の歴史を1枚のCD-ROMに収めたもの。マルチメディア時代の「ビジュアル&インタラクティブ」なもので、従来の“読む”から“見る、動く、聞く”社史となっています。
- ◆中身は5つのテーマで構成され、映像・音楽・ナレーション・テキスト(文字)で、大変分かりやすい内容です。
- ◆企画編集はV70社史編纂グループ(丸茂リーダー、古橋さん、近藤さん)が担当。製作にあたっては、デザイン部やディスク事業部などグループや社内関連部門が総力をあげ、密接な連携と協力体制によって完成いたしました。



イントロダクション：過去から現在までを走馬灯のように登場させます

21世紀

MAIN

オープニング

- 21世紀
- 70年
- 年
- 小
- 資

テレビの父・高柳健次郎先生も登場!



TV-CMの名作も

●なつかしいテレビコマーシャル、ヒット商品の名作CMもいくつか収録。テレビの父・高柳先生の元気な姿もテレビのコマーシャルで登場(写真)

収録曲65曲でタイムスリップ

●<主な曲名>波浮の港/東京音頭/異国の丘/有楽町で逢いましょう/潮来笠/世界は二人のために/てんとう虫のサンバ/襟裳岬/UFO/いとしのエリー/Glass など全65曲



時代/カテゴリー選択で画面切替え
年表や詳細解説・映像・写真が登場

〈特集のページ〉

● “テレビの父高柳健次郎先生

その1

今年テレビの父『高柳健次郎先生』の生誕100年にあたります。

日本ビクターの元副社長である高柳先生は大正15年(1926年)世界で初めてブラウン管に「イ」の字を映し出すことに成功。その後電子式TVの発明により“テレビの父”と呼ばれています。そこで私たちの師高柳先生を特集し、様々な視点から偉大な功績やいろいろな場面での教えなどを振り返りいま一度“高柳イズム”を見つめ直して見ましょう。

自ら指針を学びとり実践する



◆高柳先生は、次の3つの点を研究開発に生きる自らの指針として学びとり、研究成果や人材育成に実践し、体験された。そこが、非凡なる偉大な技術者であり、誰からも敬愛される立派な教育者でもありました。

- 1. 幼少時代、担任から「誰でも才能はある。それを引き出し伸ばして行く事が大切だ」と教えられ勇気づけられた。
2. 工業高校恩師の言葉「先を見ずえて、人のやらないことをやり成果を上げ、世に役立つ人間になりなさい」
3. 米国の論文で「人工天才」に感銘。これまで取り組んできた「チーム研究」の重要性を再認識する。心をひとつに個々の力を最大限に発揮させることが大切。

◆2.について、先生が語られたお話。～「生誕記念ビデオ」より
ー東京工大の初代校長・中村先生に言われたことは
●「これからは今やっていることを研究してもダメだ。10年、20年後の将来を見通して、世の中になくはならない重要なものを研究するとよい。『フォーチュン(幸運の女神)の前髪をつかめ』」
〔幸運の女神は頭の後ろはツルツル、前髪しかない。先回りして(時代を先取り)前にまわってつかまえよ〕
●そこで何がよいテーマかと考えたが、ラジオは今みんなやっているからダメ、でも捜しても見当たらず、本を読んだり、外人に聞いても見つからない。ところがある日、本屋で見たフランスの雑誌に「テレビジョン」のポンチ絵を一目見て、これだ！これはいいと直感的に決めた。生きている姿をうつし出す技術は今はない素晴らしい技術だと思い、私の研究テーマとなったのです。

略歴と功績

●テレビの父●

世界初、ブラウン管式テレビを発明

明治32年、静岡県浜松市生まれ。蔵前高校(現東工大)を卒業後、浜松高等工業学校助教授となり、テレビジョンの研究を本格的に開始しました。大正15年には世界で初めてブラウン管に「イ」の字の受像に成功。その後プロジェクト研究により昭和10年に送受信を含む電子式テレビジョンを完成しました。昭和12年にNHKに移って研究を継続し、昭和14年にテレビジョン実験放送を開始。その後、戦争で実験放送は中止され、一時は海軍技師を兼務しました。戦後、部下と共に日本ビクターに移り、数々の独創的技術を結実させ、また技術者の育成・指導にも熱心でした。昭和34年、家庭用VTRの基本原理を発明するなど映像文化の発展や産業界に大きく貢献し、多くの荣誉を受賞。平成2年 享年91才でこの世を去りました。

昭和56年文化勲章に続き、平成元年勲一等瑞宝章受賞



「イ」の字の送受信装置(復元)

※高柳先生は、高柳が正しい表記ですが、ここではすべて高柳としました。

経歴と歩み

- 1899年1.20 静岡県浜松市生まれ
◆幼い頃の「無線」との出会い
小学3年、モールス信号に感銘
◆「コツコツ努力」の大切さを知る
高等小学校恩師より学ぶ喜びを
◆「10年、20年先を目指せ」の教え
蔵前高校中村先生の訓話で激励
◆「無線遠視法」の着想
ラジオ放送の無線から映像でも
◆「イ」の字のブラウン管が成功
1926年12.25世界初の電送受像
◆理想の電子式への自信揺るがず
当時の機械式主流にも目標変えず
◆天覧で成功、研究体制も強化
天皇陛下の前で成功、自信つく
◆「チーム研究」で全電子式TV
1935年アイコノスコープの完成
◆東京五輪TV中継でNHK入り
NHK技研へ研究員と共に出向
◆「人工天才」チーム研究を
米国の論文で感銘を受ける
◆戦時体制下、海軍技管に徴用
電波兵器研究のため海軍へ
◆日本ビクターへ、部下と共に
1946年技術者20数人と入社
◆不本意だった6メガ、7メガ論争
日本TV放送標準規格で主張通らず
◆日本のカラーTVを世界最高に
改良を尽くし日本製最高水準に
◆ポストカラーTVのVTR開発
1959年世界初、2ヘッドVTR完成
1990.7.23逝去(享年91才)

特集 高柳健次郎先生 生誕100年

「10年、20年先を見すえて

人工天才

高柳先生は昭和47年、技術社員に対して「人工天才になるには」を配布。そこに書かれた内容は、先生が実践したチーム研究の大切さを示しています。

◆人工天才になる15の要素◆

- 1. 建設的不満 Constructive Discontent.
2. 独創力又は洞察力 Originality or Vision.
3. 勇気 Courage.
4. 専門知識 Specific Knowledge.
5. 一般知識 General Knowledge.
6. 分析力 Analytical Ability.
7. 統合力 Ability to Synthesize.
8. 常識 Common Sense.

- 9. 情熱 Enthusiasm.
10. 説得力 Persuasiveness.
11. 忍耐または、障害をのり越える決断 Perseverance, or Determination to Overcome Obstacles.
12. エネルギー Energy.
13. イニシアティブ Initiative.
14. ユーモアのセンス Sense of Humor.
15. 共同 Co-operativeness.

高柳先生はオリンピックTV放送の準備は大変なもので苦慮していた。偶然にGE Reviewに書かれたK.K. Paluev氏の論文で人工天才の考え方に感銘し、自信を深めました。

チーム研究の大切さ

この論文に書かれた内容は
●独創的な研究開発を行なうには技術者は「いかなる素質が必要か」「教育によってその素質は改善できるか」そして更に技術者がチームを作り、相当に協力して研究を進めることによって「人工天才」を生むことが出来ること。

●これまで1世紀に1~2人の天然天才によってのみ発達することが出来なかった世界が、今後は「人工天才」によって急速に進歩するであろうと予見し提唱されていました。VHS開発も人工天才の成果。

(財)高柳記念電子科学技術振興財団

●設立のねらい
「自分は若い時、研究費がなくて苦労したので、今の若い人には研究を支援してやりたい」との熱い思いから、高柳先生は昭和59年10月、私財を投じて財団を設立。電子工学分野での独創性ある研究開発の育成のため、研究者の研究費助成や顕彰などを行い、さらに未来技術シンポジウムも開催。



1/20の未来技術フォーラム

分野は異なっても、今も生き続ける先生の教え

高柳先生の誕生日にあたる1/20、第9回目を迎える「未来技術フォーラム」が東京・市ヶ谷で生誕記念として盛大に開催されました。記念講演は東大名誉教授齊藤成文氏の「私の歩んだ宇宙開発の道程」、パネルディスカッションは「オリジナル技術と創造」のテーマで行われ、高柳先生の教えや独創的な考え方などが各方面のパネラーから披露されました。皆さん

異なった立場ながらも、先生の教えやエピソードに触れられ、「高柳イズム」がそれぞれの分野で今も教訓として生きづいていることが改めて認識させられ、大変充実した討論の内容でした。なお当社からは、パネラーとして広田(テクノブレーン)社長が参加しました。その後、高柳記念賞などの贈呈式が行われ、最後は懇親会で有意義な交流が行われました。

生誕100年<特別企画>

<特集のページ>

その2

晩年、先生は自らの歩みをまとめ「テレビ事始」(有斐閣)を出版



好きな言葉は「天分に生きる」

▼自宅の執務室で(写真提供:毎日新聞)

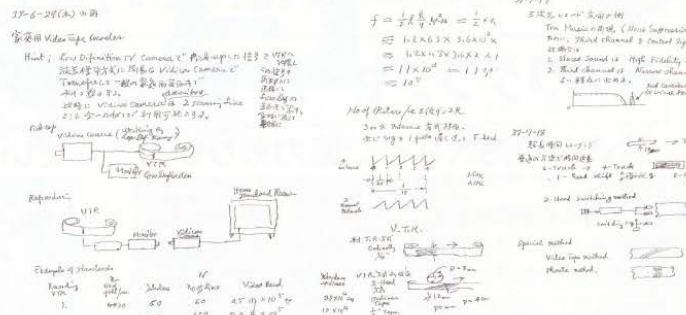


若い人たちへの期待

●私はテレビ、VTR等の研究開発によって新産業を進展させ、文化の向上を図ってきた。しかし形而下の発展だけでは人類は幸せになれないのが残念だ。

●人類が幸せになるには、善悪正邪を検証できる科学的な鏡と、未来が予見できる鏡が欲しい。多くの若い人々がこの課題に挑み、この鏡を眺めることで人類が未来を知り、その反省によって世界の平和と繁栄を手にするのを期待するのである。

発想をまとめたアイデアノート



▲アイデアノート(発想日記)には今の課題や研究テーマの解決法など克明に記録。英語が多用され、絵も非常にうまい。昭37年に3次元TVのアイデアも

教わったこと・エピソード

- 白石勇磨さん(初代ビデオ研究所長)
上野吉弘さん(元ビデオ技術部長)
田中富之さん(初代ビデオ事業部長)
廣田 昭さん(元ビデオ研究所長)
金城寿雄さん(元中央研究所研究員)
大森 悠さん(現技術開発本部長)

フォーチュン(幸運の女神)の前髪をつかめ

今こそ、大切な「高柳イズム」

郷土浜松の大きな誇り

市民から敬愛される



静大工学部に立つ履歴碑と銅像



工学部内の高柳記念館(昭36竣工)



昭和10年完成のアイコノスコープといっしょに

高柳先生の故郷浜松には、NHK放送局や静岡大学工学部などに記念碑や銅像が建てられ、今も「イ」の字の心が生きており、浜松市名誉市民として敬愛されています。

「高柳イズム」で発展を続ける企業 浜松ホトニクス(株) 書馬社長にインタビュー



世界でオレが一番と言えよう仕事を!

—当社は昭和28年に設立、旧社名は浜松テレビ(株)で光電管でスタート。今では光技術を核に基礎から応用システムまで幅広く行っています。—高柳先生と一緒に当時テレビジョン研究をしていた初代の堀内社長が、先生の考案した光電管技術を引き継ぎ、当社がその応用技術を事業化。それ以降ずっと高柳先生にご指導いただき、社内を回られる時「ありがとう、ありがとう」と感謝の気持ちを持って声をかけていただきました。—設立当時、社長から「誰もやってないことをやれ。何が正しいかひたむきに追求せよ」との先生の教えを受けました。私もよく社員に言っています。「世界でオレが一番と言えよう仕事をやれ。世の中はまだまだ分からないことだらけ、知識を得るために研究がある。前髪をつかむ努力を!」—また「人工天才」のチーム研究の重要性から海外と組んだ研究も進め、マーケット創造のために研究所を強化したり、光技術セミナーや展示会も開催。世の中のニーズを先取りし未知の分野へも「高柳イズム」をもって挑戦していきたい。

◆スローガン: Photon is our business. First on idea, Next a goal, and Finally a way.

「高柳イズム」とは—

- 高柳先生の発想の原点は「将来のために、世の中の役に立つか、人々の幸せにつながるか」であった。そして「10年、20年先を見すえ、時代を先取りしたテーマに取り組み、全力を注ぎ込む」のである。
●また「人工天才」に通じる「チーム研究」の実践も大きなポイントであった。チームが心をひとつにし、各々が主役となり、ひとり1人の能力を最大限に発揮させ、全体の成果に結びつける。しかも早く完成させることである。
●同時に、後進の育成・人材教育への熱意に溢れ、自由な討議を通じて創造性、自主性を大切にしたい。
●さらに、謙虚さを忘れず、常に「感謝」の心をもって人に接する気持ちが、多くの人々から敬愛されたのである。それが企業の枠を超えて、広く産業界に貢献し、数々の功績につながっている。
—生誕100年を迎えた今、私たちは改めて高柳先生の教えを学びとることが必要ではないか。



「科学技術の尽きぬ夢」社員限定販売 ビデオ完成

◆実費3000円/希望者はお早めに! 高柳記念財団では先生の功績と歩みをまとめた「生誕100年記念ビデオ」を作成しました。ご希望の方は下記へ申込みを。(数に限りあり) →ビクター興産・企画部・遠藤まで ☎045-450-1794 (内)8-40-5362

● 月刊社内報「大和」(daiwa) について

私が入社した昭和47年4月には、既に216号を数えていたことから、たぶん昭和29年か30年頃から月刊社内報が発行されていたようです。

(私の推測ですが、松下G傘下に入って社内報の役割が重視されたため)

内容は、グラビア(モノクロ写真数ページ)と社員の投稿記事、座談会の特集、営業拠点紹介など社内コミュニケーション中心で、表紙(写真・デザイン画など)と裏表紙(商品広告)はカラー、デザインは毎年変更といった内容でした。

後に、新聞スタイル社内報「ビクター時報」(タブロイド判、夕刊フジと同サイズ)が月2回発行されて以降、社内報の主体は「ビクター時報」に移り、「大和」は「ビクター時報」の補完的目的となったようです。

今回掲載の表紙PDF238号を最後に発行終了、以降は月2回の「ビクター時報」に合体・集約されているようです。

西郷 治男

高柳先生関係

ビクター社内報 <大和(月刊誌)> 記事リスト

2015.6.11

| NO. | 月 日 | 発行 NO. | 面(頁) | タイトル | 記事内容 |
|-----|-----------|-----------|------|-------------------------------|-------------------------------|
| 28 | 大和1972.6 | 218 | グラビア | 盛況だったビクタービデオフェア(百瀬会長、高柳副社長来場) | 5/25 パレスホテル、東京特機営業所とビデオ事業部が開催 |
| 29 | 大和1973.3 | 227 | グラビア | CD-4でWEAグループと契約調印(世界へ大きく踏み出す) | 米エレクトラ社長と北野社長と調印、高柳副社長も出席 |
| 30 | 大和1973.4 | 228 | グラビア | 第1回オーディオテクニカルコンテスト決勝大会 | 受賞者にゴールドメダルを首にかける高柳副社長 |
| 31 | 大和1973.10 | 234 | グラビア | '73ベルリンショー、VCRに注目集まる | VCRを発売するベルハウエル社幹部と話す高柳副社長 |



日本ビクター株式会社
 〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1

お部屋のスミを生かすコーナータイプ

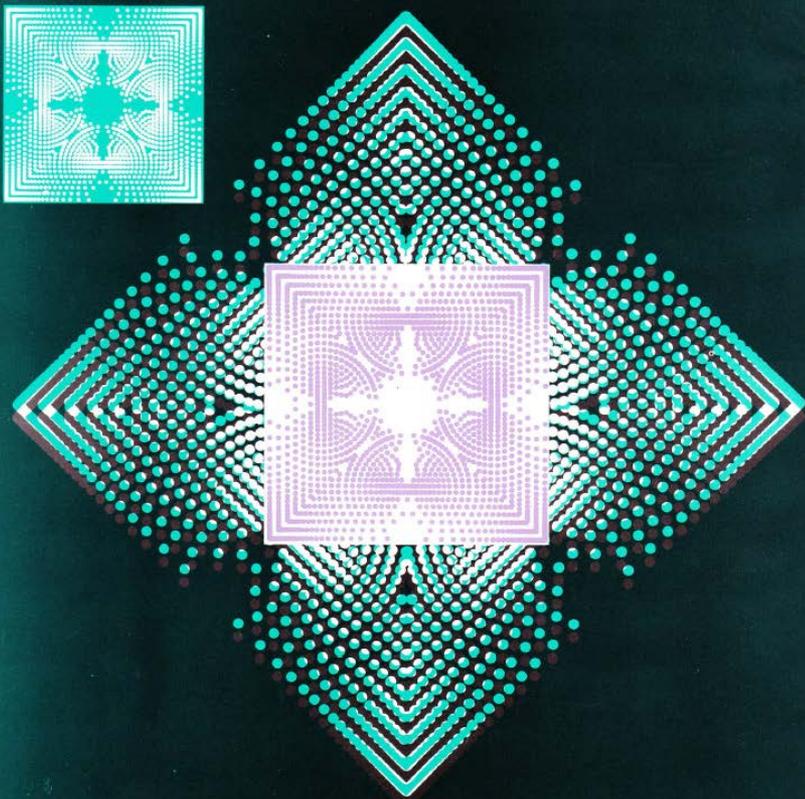
昭和28年に私たちがテレビの楽しさを知って以来、今日までお部屋のスミにピッタリと納まるテレビが出現していませんでした。そこで、日本ビクターはコーナーのインテリア風カラーテレビを開発。「スミを生かせないか。」という皆さまの声から誕生した、画期的なカラーテレビです。

- 画像がいちばんと鮮明=IC大駆採用●カラーの基本色(1)が美しい=純白回路●スイッチONでベスト画像=AFCオート●変替で初めて=ヘッドホン端子つき●生の臨場感を再現=シーンコントロール●安定した画面がいつでも=安定回路

ICトランジスター(オールチャンネル)(アンテナ工事費別)
18型18H-550型 標準価格(本体)133,000円
ビクター 純白カラ

★規格及び外観は、改善のため変更することがあります。

daiwa no.224 1972 **大和** 12 december



VICTOR AUDIO-VIDEO INNOVATOR

文化に貢献 社会に奉仕 ビクターマークは世界のマーク ビクター社内製

日本ビクターの技術開発 CD-4システム

我が国工業技術の最高賞

受賞

昭和47年度 機械振興協会賞



世界の本格派4CH

真の音楽性・芸術性を表現する Compatible Discrete 4-Channel System

CD-4

オーディオの歴史を技術で
ぬりかえる日本ビクター
一九五七年、現在使われているステ
レオ方式を開発した日本ビクターが、
一九七〇年再び、世界の本格派4チャ
ンネルシステムへCD-4を開発
その正確な音楽性、高い芸術的表現
は、世界の音響技術者に大きな反響
を呼び起こしました。
CD-4の技術に関して世界各
国に申請した特許は二五件、その他の
音響開発に四六件、世界的開発CD
-4の高度な技術に対して、日本工
業技術の最高賞である機械振興協会
賞が贈られました。



ビクター CD-4ステレオ・CD-4レコード



daiwa
no. 228
1973

4 大和

april



ファッションのポイントは色。
ビクトロンのポイントは音色です。



上達の近道——ビクトロニ教室
5才以上の方ならどなたでも入会でき基礎がた
やすく自分のものになります。
EO-150SS (サスティンつき)
¥280,000

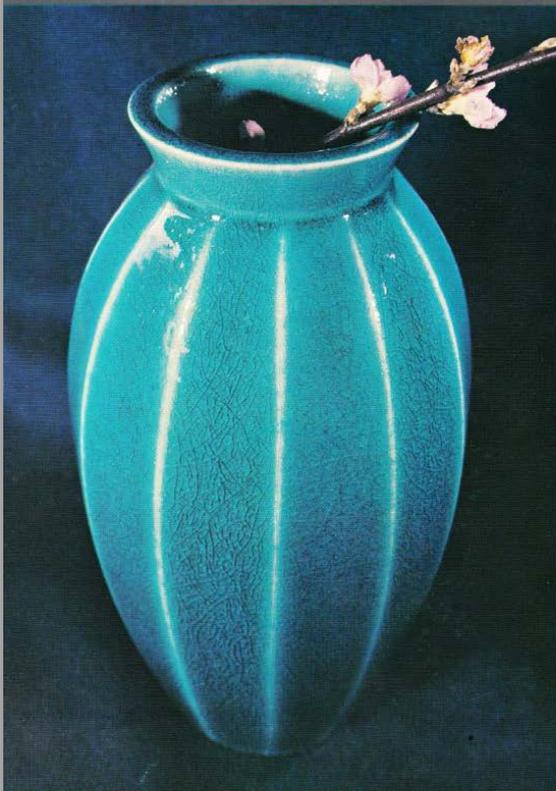
●音のビクター46年の情熱が創あげた傑作

 **ビクター電子オルガン**
ビクトロン



daiwa no.238
1974 spring

大和



桃の花
なんということか
この壺の底で
さがし続けた武器が
目の前に開くお前達だったとは
さあ、ちよいとばかり息をつこう
酸素をなめてしまうあの怪鳥から
この壺の火を守る単調な戦いに
勢一杯バラエティーを与えてやろう
初々しいお前達をかざして

青瓷花びんに桃花一輪
鉄のある青緑色のうわぐすりをかけて焼いた磁器に桃の節句に因んで桃の花を添えてみました。青とピンクとのり合せが春らしく感じます。

VICTOR
AUDIO/VIDEO INNOVATOR

■今日の声に耳をかたむけ 明日の技術に生きるビクター

日本ビクターの世界的開発

CD-4

我が国工業技術の最高賞「機械振興協会賞」受賞——国際特許305件(注)申請中



DFシリーズ **DF-8型** 5点一式 **¥238,000**

一歩進んだ技術がつくる 音の良さで好評

<DF-8型> ————— その進んだ技術

- ①<CD-4>ディモシュレーダーと2系統のマトリックス・デコーダー内蔵
- ②音程を正しく再生するサーボ・モーター
- ③ストロボ付きの31cm大型ターンテーブル
- ④大出力総合40W (E I A J)
- ⑤25cmウーハー3ウェイ・バスレフ型スピーカー・システム
- ⑥優雅なグリル付き豪華デザイン。



ビクター CD-4ステレオ

大和
発行月日 : 1972.6
発行NO. : 218

←「ビデオを使えば、わたしたちの踊りもこうしてみることができるとすね」。お客さまのビデオに対する理解が一段と深まりました。



会場には百瀬会長、高柳副社長もみえられ、各展示コーナーを注意深くみてまわられました。



さる五月二十五日、東京特機営業所がビデオ事業部の協力を得て東京・丸の内パレスホテルで実施した「ビクター・ビデオ・フェア」は、わずか一日八時間だけの開催時間でしたが、実に二千五百人もの入場者を集める大盛況――。

ビデオはポスト・カラーの本命といわれ、とくにテープをカセット化したビデオ・カセット・レコーダー（VCR）は一般家庭への普及をより可能にしたものとして、わが社が昨年十一月に発表した世界初の一体型「CE-7000型」をはじめ録画・再生ともできる「CR-6000型」、再生専用機「CP-5000型」などいずれもカセットタイプのビデオは、世間から大きな注目を集めました。今回の「ビデオ・フェア」には、こうした商品はもちろんVTRなどわが社の全商品、またこれらの商品の応用例を数多く展示しました。

わが社の特約店さまからの案内を受けて会場にみえられたお客さまは、ビデオの多方面にわたる応用例をご覧になって改めて認識を深くされたご様子。またVCRなどのあまりにも簡単な操作に場内のアチコチから感嘆の声が聞かれました。関係者は催しの大成功に「これからの販売が大変しやすくなった」とし、こんごの営業活動に大きな意欲をみせています。

タイトル
「盛況だったビクタービデオフェア（百瀬会長、高柳副社長来場）」

記事内容
「5/25 パレスホテル、東京特機営業所とビデオ事業部が開催」

高柳副社長

北野社長



WEAグループと契約調印!

●ふじ調印も終わり「お互いに協力しましょう」とニコリ



●「世界のCD-4」へ、さらに大きく踏み出す―歴史的な調印式の一瞬

エス、レッド・ツェッペリン、ジェームス・テイラー等々のアーティストもこのグループです。
これからは、RCAやWEAなどの世界のアーティストがCD-4レコードとなつてどんどん登場してくるわけで、音楽ファンにとつてもまさに朗報といえます。(くわしくは、「ビクター時報」3/1号をごらんください)



●調印のテーブルにかざられた日米両国国旗が印象的

WEAグループは、映画、レコード、雑誌、テレビなど百以上の系列会社をもつ多角経営会社「ワーナー・コミュニケーション社」の一翼をなす、参加レーベル十七を擁し、アメリカ最大のシェアをもつレコード会社グループ。
ローリング・ストーンズ、フランク・シナトラ、カウント・ベイシー、デューク・エリントン、MJQ、イ

わが社が開発した「世界の本格派CD-4」は、その後、飛躍的な歩みをみせて4チャンネル・ステレオの中の大きな流れとなつていますが、このほどアメリカのWEAグループも採用を決定し、さらに大きく「世界のCD-4」へ踏み出しました。
WEAグループ(ワーナー、エレクトラ、アトランティック・グループ)は、一年半にわたつて独自の技術調査研究と市場調査をしてきましたが、CD-4レコードが将来のレコードとして発展するという確信をもち、CD-4の採用を決意、こんどの契約となつたものです。
このほど、本社八階の役員会議室において、北野社長とWEAの4チャンネル・レコード合同技術委員会議長でエレクトラ・レコード社長のジャック・ホルツマン氏による契約調印式が行なわれました。
調印後おふたりは「世界中の人々に、CD-4による音楽の新たな次元を提供するようお互いに協力しあいましょう」としつかり手をにぎりあいました。

WEAグループは、映画、レコード、雑誌、テレビなど百以上の系列会社をもつ多角経営会社「ワーナー・コミュニケーション社」の一翼をなす、参加レーベル十七を擁し、アメリカ最大のシェアをもつレコード会社グループ。
ローリング・ストーンズ、フランク・シナトラ、カウント・ベイシー、デューク・エリントン、MJQ、イ



サービスひきうけました！

●第一回オーディオ・テクニカル・コンテスト決勝大会！



〈写真上〉はれの受賞！ 後列の三人は左から優秀賞・榊橋さん（名古屋VSC）、最優秀賞・杉本さん（三岐TSC）、優良賞・栗田さん（長野VSC）、前列は敢闘賞受賞の皆さん。〈写真下〉最優秀賞をみごとに受賞した三岐VSCの杉本鐘夫さん。高橋副社長からゴールドメダルを首にかけてもらいます。



「全力をつくします！」と選手宣誓の関東VS・若槻健さん



わが社は、このショーで3/4インチVCRをベル&ハウエル社を通じて発売すると発表、写真のように実に多くの記者が集まり、高い関心を集めたことを物語っています



ベル&ハウエル社のブースに展示されたわが社VCR



PALバージョンVCRはヨーロッパ向けに完成されたものです



<CD-4>も展示され、多くの注目を集めました



記者会見の場で高柳副社長(左)とベル&ハウエル社のシェーンベルグ重役



わが社ブースでVCRの商品説明を担当してくれたお嬢さん



ベルリン市内の一部